

■ ねらい

資料1

「偕楽園魅力向上アクションプラン」に基づき、

**本質的価値（文化的・景観的資源としての価値）を通じて、
あらゆる人々が学び、楽しみ、癒される場**

とすべく、
美しい空間演出を行うための指針である「偕楽園 景観ガイドライン」を定める。

風景の保全・育成

- 造園思想の訴求
- 統一されたデザイン

魅せる梅林づくり

- ほ場整備
- 梅林再生計画

偕楽園 景観ガイドラインで定める事項

- 景観形成の方針
- 景観的・文化的価値を体感する動線と景観重点ポイント
- 景観重点ポイントにおける対応方針及び具体方策

■ 偕楽園の受け継がれた魅力

※偕楽園魅力向上アクションプランより抜粋

- 創 設：1842年（天保13年）
- 創設者：水戸藩第9代藩主 徳川斉昭

文化的資源としての価値

国指定史跡名勝指定

①藩主斉昭による園の創設

創設者である斉昭が偕楽園記碑に残した作庭思想

- ・先進的な庭園
- ・千波湖，拡張部も含めた大スケールな庭園
- ・人工二分，天然八分の巧みな造園技術
- ・陰陽体験（表門から入り，好文亭へ）

②「近世における公園の濫觴」といえるもの

- ・藩主だけの遊び場ではなく，
全く近代の公園として衆と偕に楽しむ目的で造園

③敬老の式典を含めた園の一般公園

- ・藩の老人を集め祭事
- ・藩民に自由に利用（一般公開）

④梅林の多目的意味

- ・春一番最初に花咲く先見性の象徴
- ・有事の軍用貯梅 ・学問の木

景観的資源としての価値

①千波湖八景

②水戸八景



偕楽園図



【主な構成要素】

- ① 好文亭（楽寿楼） ② 梅林 ③ 千波湖 ④ 桜山 ⑤ 水田
- ⑥ 茶園 ⑦ 玉龍泉 ⑧ 吐玉泉 ⑨ 藤棚 ⑩ 丸山 など

※下線は現在失われたもの

偕楽園の魅力を高めるために、関連施設を含め地域・エリア全体で一体的に解決すべき課題。

本園

※朱書き：景観に関する課題を抽出

○文化的資源、景観的資源を活かす 配慮が不足

- ・**偕楽園の思想が継承できてない**（梅の管理など）
- ・園内や千波湖への**眺望が阻害**されている
（人工構造物や巨木化した植栽木が支障）
- ・園内の仮設工作物が**景観を台無し**にしている
- ・規制柵などが無くてもいい場所にもある
- ・梅はキレイでも**写真映えしない**

○もてなす空間としての演出が不足

- ・看板、建物などの色合い、**デザインに統一感**がない
- ・休憩所の雰囲気がない（毛氈や傘などの演出）
- ・梅林なども全体的な**植え方の意図が不明**（演出性）
- ・年間を通じた**空間演出が無い**

○ホスピタリティに欠けている

- ・ボランティアの質の向上（しゃべる⇒伝える人）
- ・ロッカー・ベビーカー置き場が分かりにくい
- ・**照明の目隠しは4方を囲まないと意味がない**
- ・販売商品も「ここならではのもの」が無い

○コンテンツ不足

- ・誰に何を楽しんでもらうのか不明確
- ・子供が楽しめるものが少ない
- ・夜楽しめるものがない
- ・休むところがない
- ・夏、冬、夜間の賑わいづくりがない
- ・鑑賞が中心で体験ができていない
- ・放送している音声ガイドなど誰も聞いていない
- ・看板以外の情報発信（伝える）がない

拡張部

- ・目的地が無い
- ・休むところがない（過ごせない）

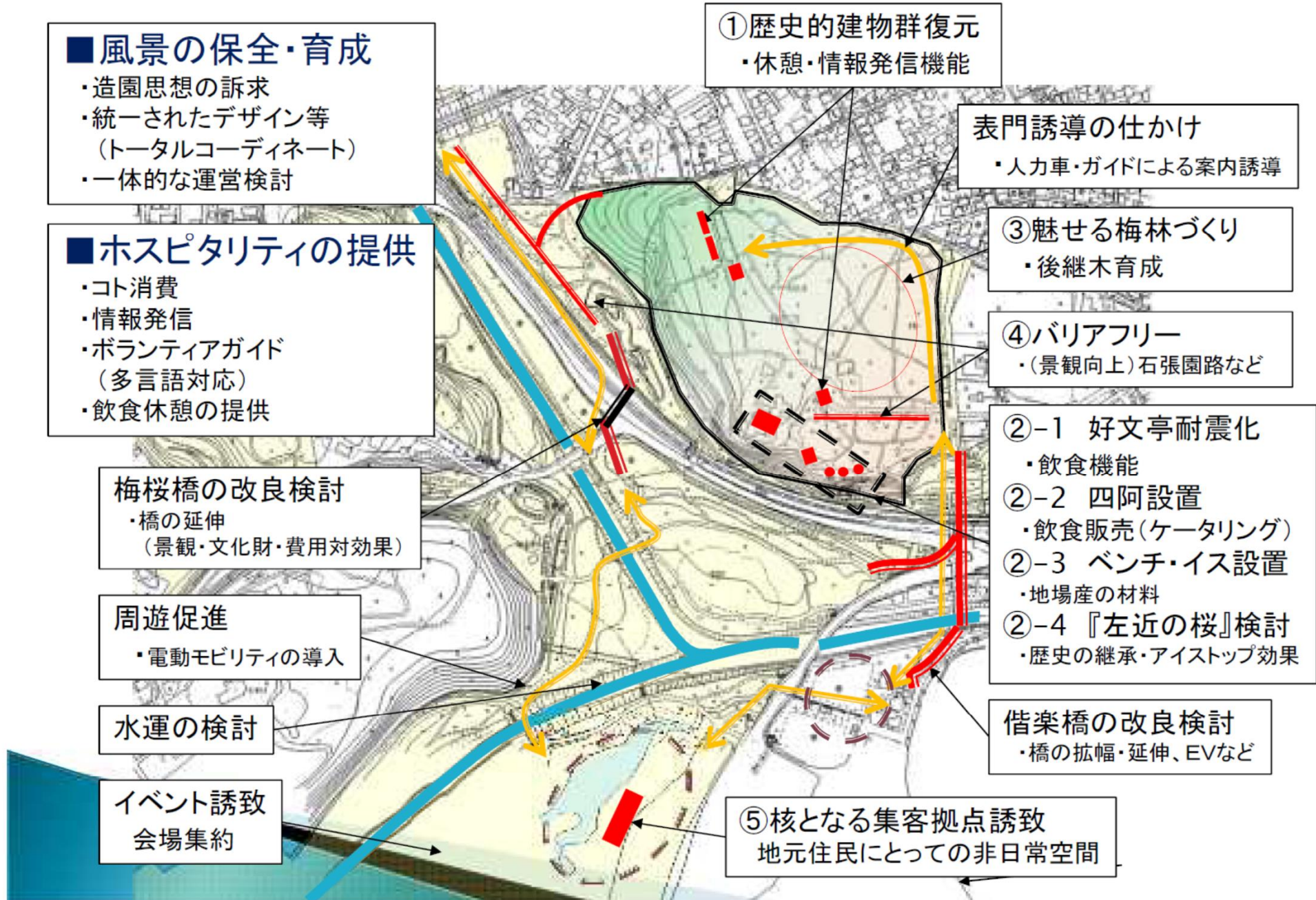
アクセス（本園～拡張部）

- ・移動距離が長い
- ・線路、道路、河川で分断
- ・幅員が狭い

- ・目的地が無いと橋は渡らない
- ・**橋が目立ち、景観を阻害している**

■ 偕楽園アクションプラン

※偕楽園魅力向上アクションプランより抜粋



■ 本検討の基本的な考え方

創建当時から慣れ親しんだ偕楽園



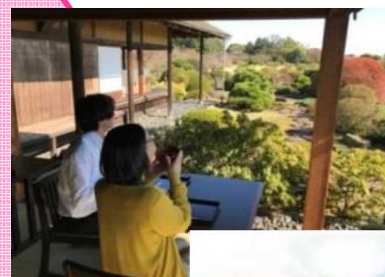
- 歴史的・景観的価値の高い風景（水戸八景・千波湖八景）



調和
・
融合

偕楽園アクションプラン

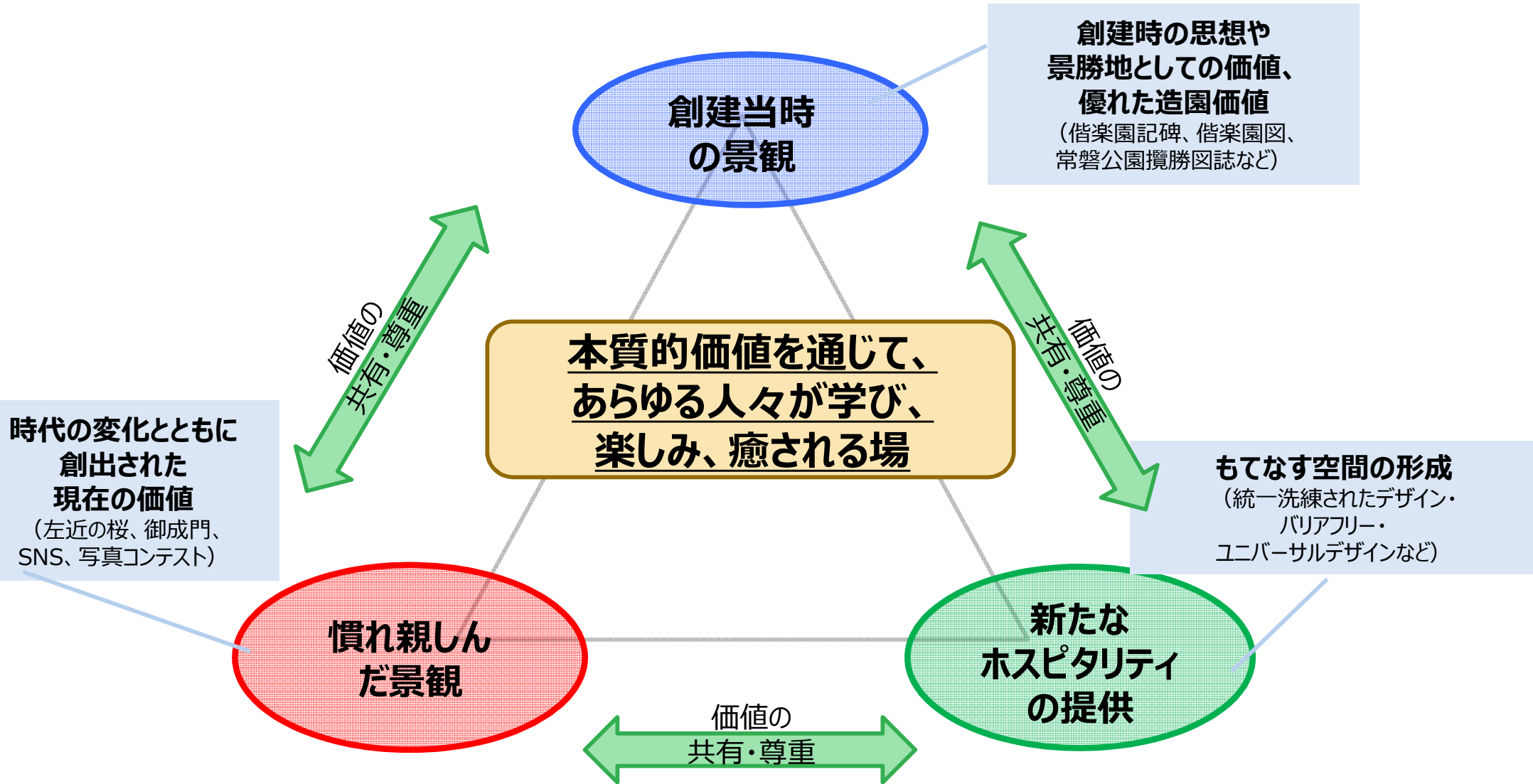
- 風景の保全・育成（魅せる風景づくり）
- ホスピタリティの提供
- 歴史的建造物を復元・案内・飲食の提供
- 眺望ポイントでの休憩所、飲食の提供
- 身近な非日常を楽しむ施設（拡張部）
- バリアフリー・ユニバーサルデザイン



- 創建当時の景観的価値は、自然条件や営み・文化などの社会環境の変化の中で保全されつつも、価値観の変化を許容してきた。 ⇒ **現在の慣れ親しんだ景観**
- 偕楽園の魅力を高めるため、魅せる風景づくりや**新たなホスピタリティの提供**などの**新たな価値観**と創建時から現在まで慣れ親しんだ景観を調和・融合を図っていく必要がある。

美しい空間演出のための**“目指すべき景観の姿”**について議論

■ 検討を進める上での3つの視点



景観形成の方針

偕楽園が持つ**本来の景観的資源・文化的資源**を**現在の魅力**や**新たな魅力**と融合し、景（景観的価値）と用（機能や施設）との調和を図ることで、景観的価値を磨き上げ、**時代を超えて受け継がれる魅力（ストーリー）**を体感する**偕楽園**を目指す

■ 検討の進め方

景観形成の方針（資料1）

偕楽園が持つ**本来の景観的資源・文化的資源**を**現在の魅力**や**新たな魅力**と融合し、景（景観的価値）と用（機能や施設）との調和を図ることで、景観的価値を磨き上げ、**時代を超えて受け継がれる魅力（ストーリー）**を体感する偕楽園を目指す

動線（ストーリー）・景観重点ポイントの設定（資料2）

創建当初の**設計思想**や**現在の偕楽園の魅力**、**新たに付加する魅力(ホスピタリティ)**を体感するための「動線（ストーリー）」と、その動線上の「**景観重点ポイント**」を設定

景観重点ポイントごとの対応方針・具体策の検討（資料3）

- 景観重点ポイントごとに、「目指す景観」について議論し「磨き上げる」ための対応方針を設定
- 偕楽園の魅力を体感できるシーケンス景観を形成するべく、全体に共通する景観構成要素である植栽や工作物等の課題への対応策を検討

景観ガイドラインの策定

偕楽園を、本質的価値（文化的・景観的資源としての価値）を通じて、あらゆる人々が学び、楽しみ、癒される場とするため、偕楽園の魅力を体感できる「**美しい空間演出**」（**景観構成要素のコントロール方策**）をとりまとめる

景観形成の方針（資料1）

偕楽園が持つ**本来の景観的資源・文化的資源**を**現在の魅力**や**新たな魅力**と融合し、景（景観的価値）と用（機能や施設）との調和を図ることで、景観的価値を磨き上げ、**時代を超えて受け継がれる魅力（ストーリー）**を体感する偕楽園を目指す

動線（ストーリー）・景観重点ポイントの設定（資料2）

創建当初の設計思想や**現在の偕楽園の魅力**、**新たに付加する魅力(ホスピタリティ)**を体感するための「動線（ストーリー）」と、その動線上の「景観重点ポイント」を設定

景観重点ポイントごとの対応方針・具体策の検討（資料3）

- 景観重点ポイントごとに、「目指す景観」について議論し「磨き上げる」ための対応方針を設定
- 偕楽園の魅力を感じることができるシーケンス景観を形成するべく、全体に共通する景観構成要素である植栽や工作物等の課題への対応策を検討

景観ガイドラインの策定

偕楽園を、本質的価値（文化的・景観的資源としての価値）を通じて、あらゆる人々が学び、楽しみ、癒される場とするため、偕楽園の魅力を感じることができる**「美しい空間演出」（景観構成要素のコントロール方策）**をとりまとめる

■ 動線設定の基本的な考え方（3つの視点における動線）

■ 創建時の設計思想の動線

- 藩主斉昭の作庭思想を体感する動線
- ・ 表門から入り大杉森、モウソウチク林を経て、好文亭に至る陰陽体験と、そこから千波湖・拡張部を含めた大スケールの庭園を感じる見晴らし広場へ至る動線

■ 現在の主な使われ方と慣れ親しまれてきた景観

- 交通の至便な東門から入り、現に衆と偕に楽しむ動線
- ・ 東門から梅林、芝前門を通り、好文亭で庭園や楽寿楼から千波湖、桜山などの景色を賞味した後、見晴し広場で千波湖の景色を眺めて、東門に戻る
- ・ 梅のシーズンには東門から直接に梅林を回遊する

■ ホスピタリティの提供など今日的価値の共有・尊重

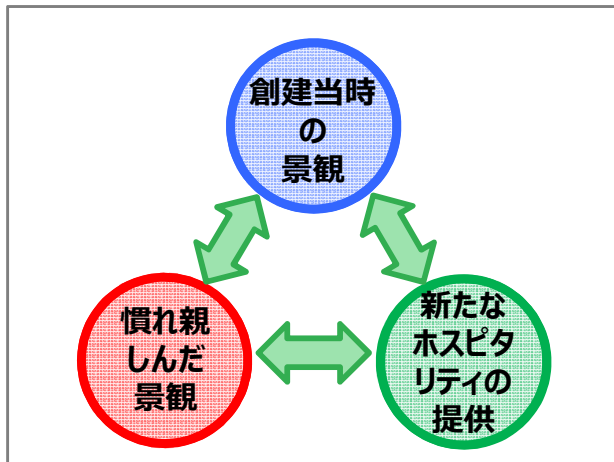
- 景（本来の景観的価値と現在の景観的価値）と用（機能や施設：新たなホスピタリティ）との調和を図り、あらゆる人々が学び、楽しみ、癒される動線
- ・ 歴史的建物群の復元による休憩機能と既存動線を組み合わせた誘導
- ・ 魅せる梅林づくりによる誘導
- ・ 既存の東門からのアプローチのバリアフリー化
- ・ 既存動線における見晴らし広場の飲食の提供



■ 景観的・文化的価値を体感する動線（ストーリー）

- 偕楽園が持つ本来の景観的資源・文化的資源を現在の魅力や新たな魅力と融合することで、偕楽園の魅力を引き上げるための**動線（ストーリー）を設定**（シーケンス景観）。

時代を超えて受け継がれる 偕楽園の価値・魅力を体感する動線

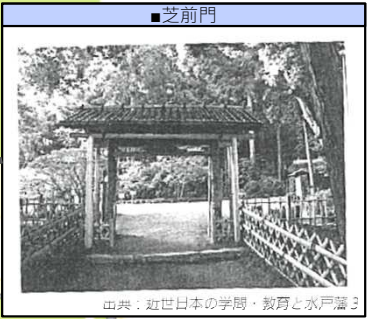
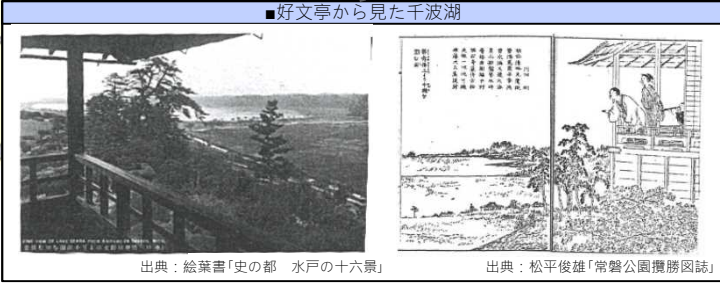
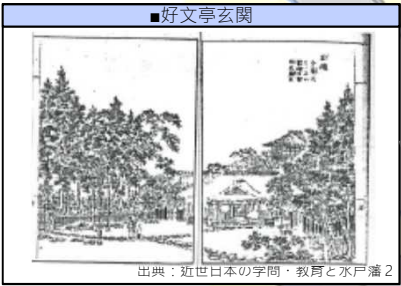
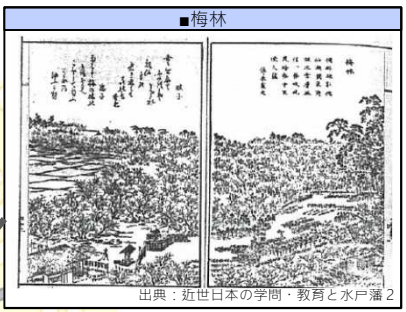
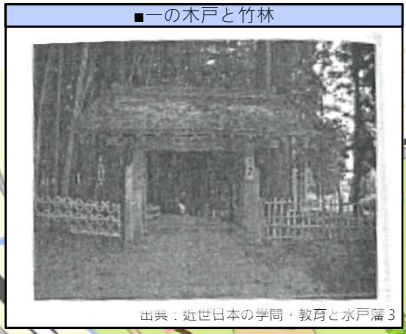


ストーリー① 「陰と陽の世界」の体感
藩主斉昭の作庭思想の体感から
現代風にアレンジされた魅力の体感へと移り変わる動線

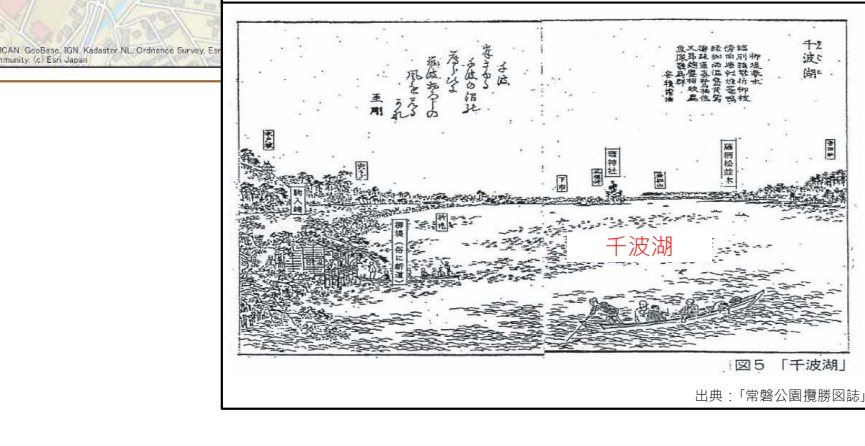
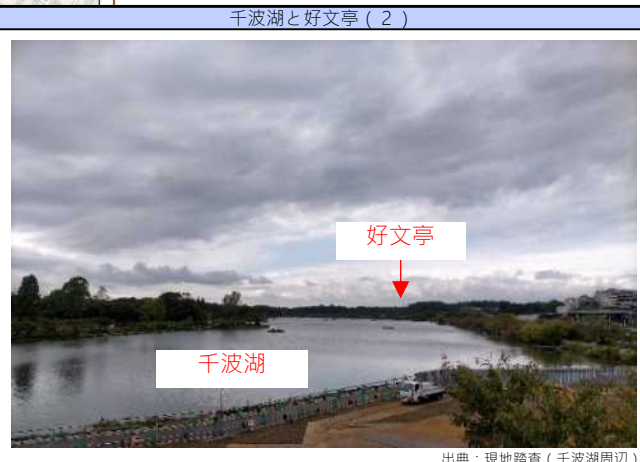
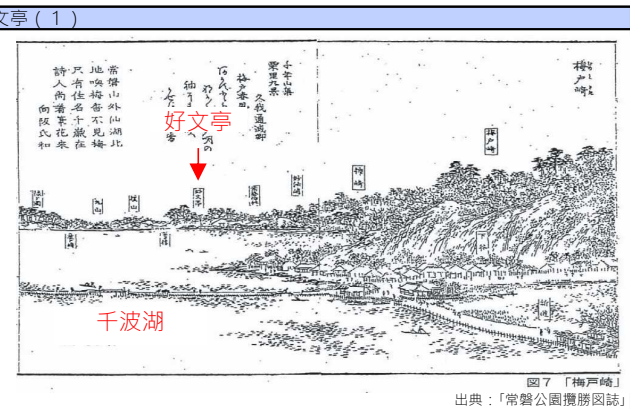
ストーリー② 偕に楽しむ
開放的で衆と偕に楽しむ空間・時間から、心を落ち着かせ、
創建当初の景観的・文化的資源の体感へと遡及する動線



【設計思想を体感するための
視点場の構成要素(本園)】



【設計思想を体感するための視点場の構成要素(周辺からの視点場)】



現在の魅力を体感できる 視点場の現状(本園)

SNSの投稿写真や
写真コンテストなどからみた
現在の主な視点場



千波湖

現在の魅力を体感できる視点場の現状(周辺からの視点場)

SNSの投稿写真や
写真コンテストなどからみた
現在の主な視点場

■玉龍泉



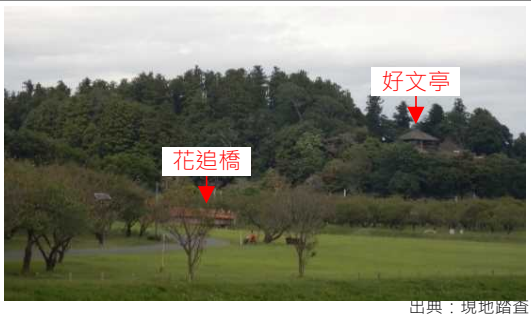
出典：SNS投稿写真

■玉龍泉から好文亭の方向をのぞむ



出典：現地踏査

■花追橋と好文亭



出典：現地踏査

■桜山

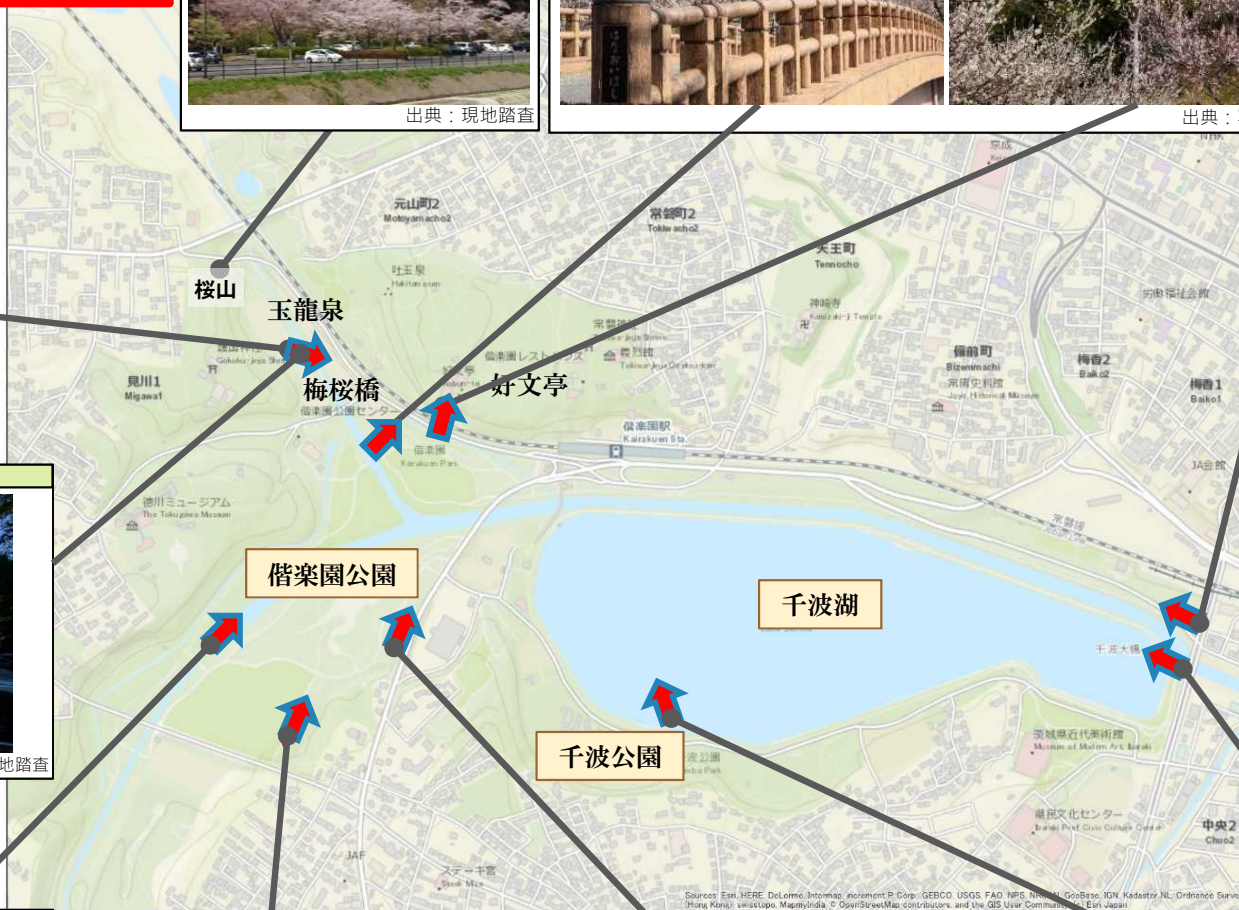


出典：現地踏査

■偕楽園公園からみた好文亭



出典：写真コンテスト



■千波湖と好文亭 (1)



出典：現地踏査

■千波湖と好文亭 (2)



出典：現地踏査

■偕楽園公園入口からみる好文亭



出典：現地踏査

■偕楽園公園からのぞむ好文亭



出典：現地踏査

■千波湖からみる好文亭と常磐神社



出典：現地踏査

ホスピタリティ施設や新たな魅力を提供する場所

■バリアフリー
・表門誘導ルートの一貫感のある整備



■歴史的建物群復元
・竹林を望む休憩施設の整備



■歴史的建物群復元
・現管理園場周辺における歴史的景観の復元



■風景の保全・育成
・好文亭からの魅せる風景づくり



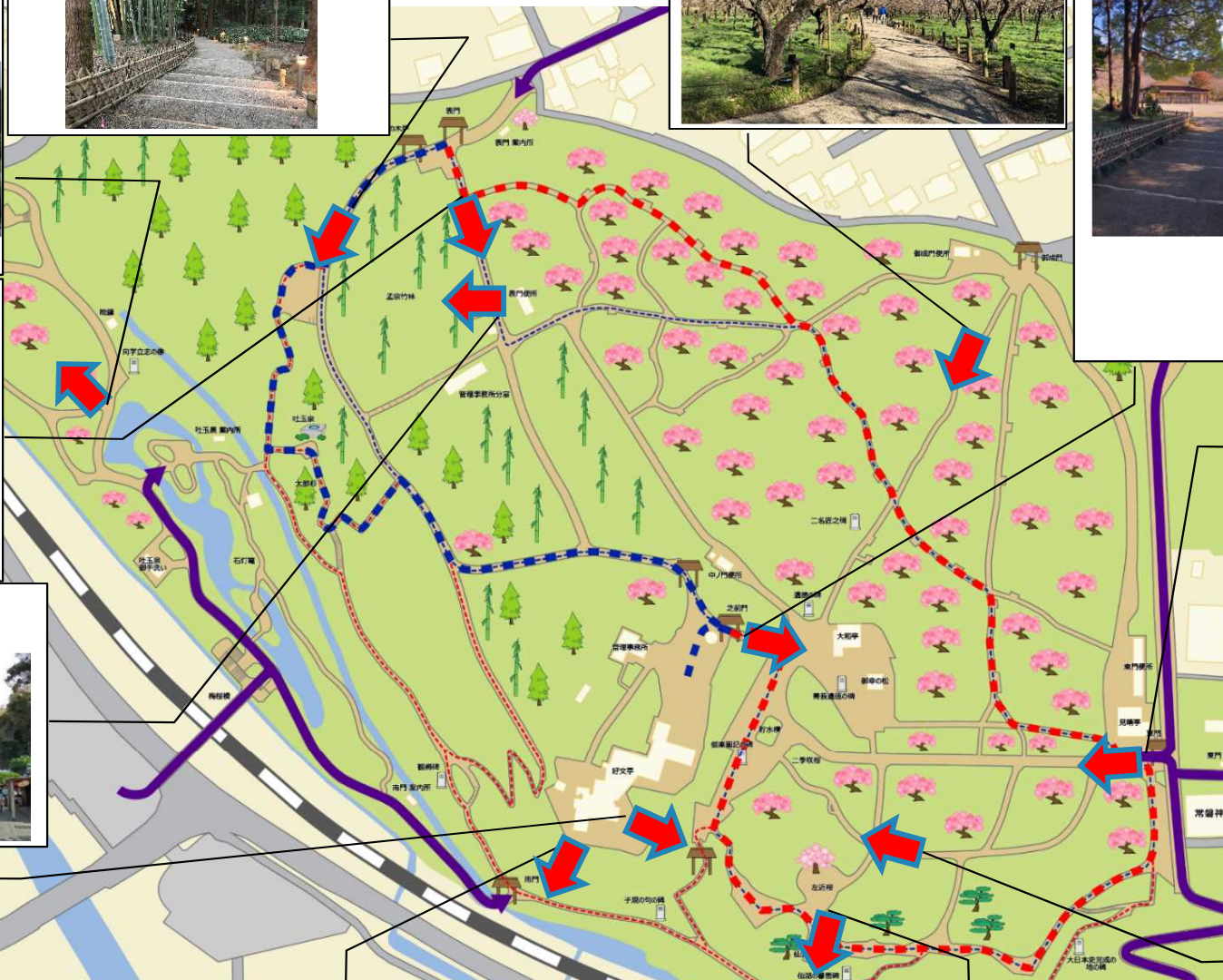
■バリアフリー
・創建当時からの園路のバリアフリー化



■魅せる梅林づくり
・シークエンスのランドスケープデザイン



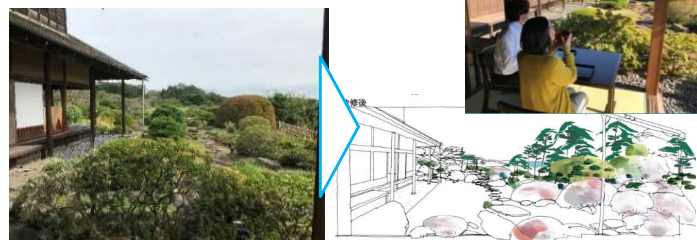
■歴史的建物群復元(大和亭)
・建屋復元と運営拠点、情報発信、休憩機能の整備



■バリアフリー
・後から整備した園路の美化
・バリアフリー



■眺望ポイントでの休憩所・飲食提供
・好文亭での呈茶



■眺望ポイントでの休憩所・飲食提供
・見晴し広場の四阿復元
・休憩機能(ベンチ、テーブル)の整備



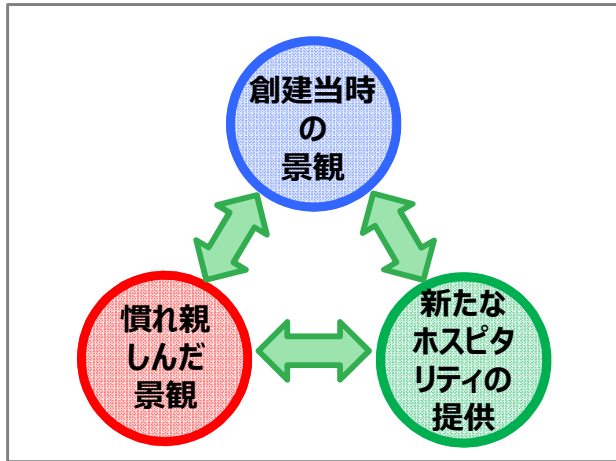
■眺望ポイントでの休憩所・飲食提供
・左近の桜の検討



■ 景観的・文化的価値を体感する景観重点ポイント

- 偕楽園が持つ本来の景観的資源・文化的資源を現在の魅力や新たな魅力と融合することで、偕楽園の魅力を磨き上げるための**動線上の景観重点ポイントを選定**（シークエンスな景観の主要な視点場を選定）。

時代を超えて受け継がれる 偕楽園の価値・魅力を体感する動線



「陰と陽の世界」の体感
藩主斉昭の作庭思想の体感から
現代風にアレンジされた魅力の体感へと移り変わる動線

偕に楽しむ
開放的で衆と偕に楽しむ空間・時間から、心を落ち着かせ、
創建当初の景観的・文化的資源の体感へと遡及する動線

シークエンスな景観の主要な視点場

||
景観重点ポイント
(図中●)



■ 景観重点ポイントの現状（その①）

孟宗竹林、大杉森

- ・杉の混在により、竹林としての景観が統一感に欠けている。
- ・樹冠が重なる密度の竹林と、ある程度の見通しがきく大杉森において、光量にアンバランスが生じている。



表門、一ノ木戸門

- ・表門横のヤブツバキが成長して影を落とし、表門の印象を弱めている。そのため表門よりも料金所に目が行ってしまう。



好文亭

- ・庭園の地面は、飛石の不陸や雨だれによるくぼみ、芝の生育不良が生じている。
- ・好文亭と奥御殿を繋ぐ渡廊下と玄関の間の空間は、デッドスペースとなり閑散としている。
- ・近景は庭園的なしつらえの中で照明や案内板などの工作物がむき出しになり、巨大化したツツジが見通しを遮っている。



太郎杉・吐玉泉

- ・太郎杉と吐玉泉に空間的な一体感がない。
- ・周辺の杉が繁茂し、「好文亭四季模様之図」に描かれた太郎杉の象徴性に欠け、名所としての魅力が不足。



好文亭入口

- ・植栽は手入れされているが、植栽の密度が高く、全体的な重たさを感じさせる。
- ・周辺の高木により圧迫感を感じさせる。



■ 景観重点ポイントの現状 (その②)

芝前門、大和亭

- ・芝前門脇の仮設スロープは車いすのほか多くの方の利用が見られる。
- ・芝前門をくぐった先の植栽配置が大和亭への誘導を促してしまい、主動線である借楽園記碑や見晴らし広場への誘導がなされていない。



管理圃場(⇒建築物復元)

- ・近接する竹林、梅林との調和のとれた施設整備が必要。



梅林

- ・【春】梅の木が部分的に過密で、樹木同士が重なって見える。
- ・水戸の六名木等は柵の存在感が強い。
- ・梅林の園路はゆとりがなく、交差部は窮屈な空間。
- ・園路に変化が少なく、見通したとき奥行きが感じにくい。



見晴らし広場(左近の桜(植栽地)、二季咲桜)

- ・【春】見晴らし広場から好文亭と桜を眺めたときに、好文亭背後の樹林は無造作で、眺望を阻害している。



見晴らし広場(仙奕台)

- ・柵や囲に統一感がなく、案内板は松やその他の工作物と比較して大きな印象を与える。



見晴らし広場

- ・【春】【秋】萩やツツジが巨大化し、見晴らし広場の中から好文亭への眺望を阻害している。



■ 偕楽園周辺部の景観重点ポイントとその現状

- 四季の原や千波湖岸や偕楽園（本園）周辺部から好文亭を眺める主な視点場を
景観重点ポイントとして選定

猩々梅林、花追橋

- ・好文亭背後の樹林が成長し、張り出している。



桜山(玉龍泉)

- ・高木が遮蔽物となり、好文亭を望むことができず、さらに、その手前には梅桜橋が露出。



田鶴鳴梅林

- ・好文亭背後の樹林の西側(写真左手)はスカイラインが整っているが、東側は連続性に欠ける。
- ・梅の落葉期以外は鉄道の架線、電柱を概ね被覆する。(一部露出)



千波大橋

- ・市街地の建築物等が見られるがスカイラインは整っている。



千波公園(千波湖南岸)

- ・攬勝図誌と比べてスカイラインに凹凸感がある。
- ・貸しボートの色合いが配慮に欠ける。



窈窕梅林

- ・好文亭背後の樹林が成長し、好文亭の視認性が低い。
- ・好文亭背後の樹林は大まかでスカイラインが整っていない。
- ・梅の開花期は鉄道の架線、電柱を概ね被覆する。(一部露出)



窈窕梅林

月池周辺

四季の原

四季の原

- ・工作物の色、大きさ、形が遠景を妨害している。



月池

- ・一本立ちの高木がアイストップとなりアクセントになっている。
- ・視点場によっては本園への眺望を高木が妨害しており、ベンチの配置に改善が必要。



景観ガイドラインでの対応の考え方

景観形成の方針（資料1）

偕楽園魅力向上アクションプランを踏まえ、偕楽園が持つ**本来の景観的資源・文化的資源**を**現在の魅力**や**新たな魅力**と融合し、景（景観的価値）と用（機能や施設）との調和を図ることで、景観的価値を磨き上げ、**時代を超えて受け継がれる魅力（ストーリー）**を体感する**偕楽園**を目指す

動線（ストーリー）・景観重点ポイントの設定（資料2）

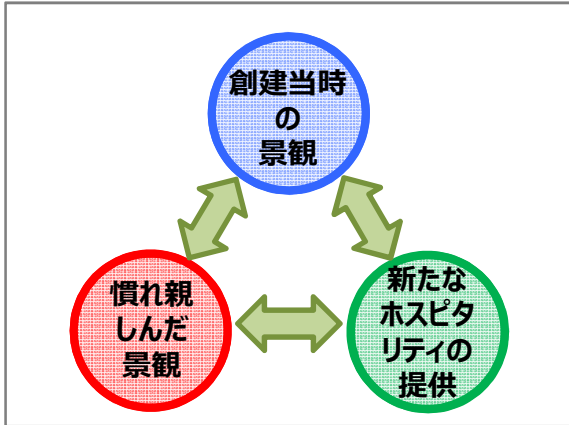
創建当初の**設計思想**や**現在の偕楽園の魅力**、**新たに付加する魅力(ホスピタリティ)**を一体的に体感するための2つの「**動線（ストーリー）**」と、その動線上の**15箇所（本園内）**の「**景観重点ポイント**」を設定

対応方針及び具体策（資料3）

- ・**景観重点ポイントでの景観への配慮（本資料の青帯）**
 - ⇒ 15箇所の景観重点ポイントごとの特性に応じて、「目指す景観」への議論を行い、景観改善の狙いを明確化し、方策案を提示
- ・**景観重点ポイントなどをつなぐ動線(ストーリー)上のシークエンス景観への配慮(本資料の黄緑帯)**
 - ⇒ 植栽の改善（低木の矮小化や高木の剪定・伐採など）
 - ⇒ 案内板や柵、照明等の工作物の再整備（周辺の景観と調和を図った意匠、動線を考慮した再配置など）
 - ⇒ 仮設工作物の景観への配慮（景観重点ポイントにおける景観に配慮など）
 - ⇒ 園外の工作物、構造物等の改善（管理者に景観配慮の協力要請など）

■ 景観的・文化的価値を体感する動線（ストーリー）と景観重点ポイント

時代を超えて受け継がれる
偕楽園の価値・魅力を体感する動線



ストーリー① 「陰と陽の世界」の体感
藩主斉昭の作庭思想の体感から
現代風にアレンジされた魅力の体感へと移り変わる動線

ストーリー② 偕に楽しむ
開放的で衆と偕に楽しむ空間・時間から、
心を落ち着かせ、創建当初の景観的・文化的資源の
体感へと遡及する動線

シークエンスな景観の主要な視点場

||
景観重点ポイント
(図中●)



※中ノ門は景観について大きな改善を行わず、現在の景観の維持に努める。

■ 景観重点ポイントでの景観への配慮

No	景観重点ポイント		ページ
1	表門		P.5
2	一ノ木戸		P.6
3	孟宗竹林、大杉森		P.6～7
4	太郎杉、吐玉泉		P.8
5	好文亭入口		P.9
6	好文亭庭園		P.10
7	好文亭からの景観	～見晴らし広場方面～	P.11～12
8		～千波湖方面～	
9		～桜山方面～	
10	芝前門		P.15
11	大和亭		P.16
12	見晴らし広場・仙奕台 ～千波湖方面～		P.17
13	梅林		P.18,19
14	管理圃場(歴史的景観の復元)		P.20
15	東門		P.21

■ 景観重点ポイントなどをつなぐ動線(ストーリー)上のシーケンス景観への配慮

No	項目	景観箇所等	ページ	
1	植栽の改善	低木の矮小化と高木の剪定	好文亭	P.22
2		ツツジの矮小化	見晴らし広場から好文亭	P.23
3		高木の剪定	好文亭背後	P.24,25
4		南崖の高木の伐採	・拡張部などからの眺望 ・南崖園路	P.26,27
5		広葉樹の伐採と樹形管理	桜山	P.28
6	工作物等の意匠や再配置	園内におけるサイン計画	P.29	
7		御成門	P.30	
8	仮設工作物の意匠や配置	園内全体	P.31	
9	園外の工作物、構造物等の意匠	拡張部や千波公園	P.32	
10		鉄道コンクリート柱など	P.33	

1. 景観重点ポイント（表門）

＜目指すべき姿＞

- ・**創建当時の主動線の入口**として、「**陰と陽の世界**」へ期待感を持たせる**象徴的な景観**を形成

＜現況と課題＞

- ・創建当時から現存する建築物である「表門」が周囲の植栽（ヤブツバキや梅など）の成長により、印象が薄くなっている。
- ・攬勝図誌に描かれた駒繋ぎは、来園者を迎え入れる料金所として整備。

【具体的な方策】

- ①表門を際立たせるため、**表門左手のヤブツバキを剪定により縮小する。**
- ②**表門周りのアプローチ部の梅などの植栽が表門にかからないように樹冠を縮小する。**

【景観に配慮すべきこと】

- ・ヤブツバキ、梅の剪定にあたっては、段階的に縮小して自然樹形を保つことで景観上の急激な改変を避ける。

表門手前からの眺望



②梅などの剪定

攬勝図誌に描かれた表門周辺



2. 景観重点ポイント（一ノ木戸～孟宗竹林、大杉森）

<目指すべき姿>

- ・誰もが陰の世界を体感できる空間

<現況と課題>

- ・来園者の半数は高齢者であり、市民に開かれた偕楽園の観点からも主要動線上はユニバーサルデザインを取り入れた園路整備が求められている。
- ・高低差のある既存の園路は、階段が整備されている。
- ・既存の園路脇に、ユニバーサルデザインの勾配基準に準拠したスロープを整備する場合、大規模な改変を伴い景観影響が大きい。

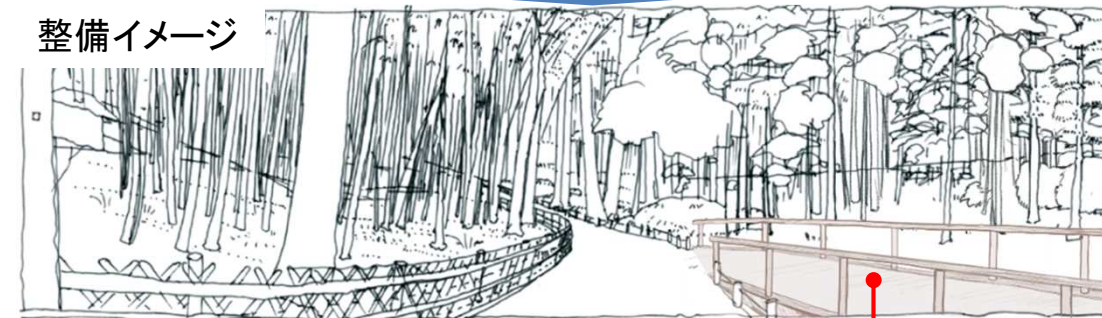
[具体的な方策]

- ① 既存の園路脇に、スロープ（樹木の伐採を最小限にとどめた案）を整備

[景観に配慮すべきこと]

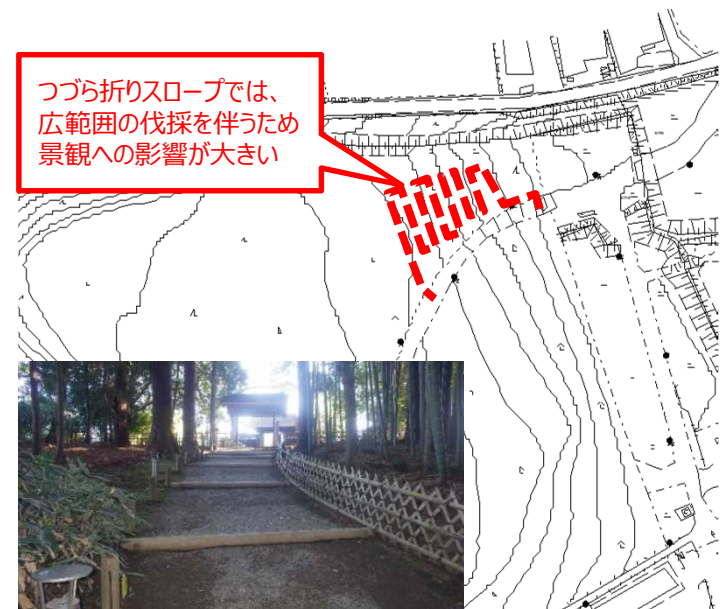
- ・バリアフリー基準への準拠は景観への影響とのトレードオフとなる。
- ・移動円滑化ガイドライン（バリアフリー基準）に準拠した緩傾斜スロープでは、杉林内の大規模な改変が生じるため、介助者や電動車いす等のフット対策の組み合わせにより、最小限の土地改変にとどめる。
- ・「陰の世界」にふさわしく、手すりや舗装面の色彩を周辺の竹柵や砂利舗装に合わせた素材を使用する。

景観への影響を抑えたスロープ整備イメージ



①ソフト施策と併用して景観影響を抑えたスロープ整備

【参考】バリアフリー基準を満たすためのつづら折りスロープ整備ルート案



3. 景観重点ポイント（孟宗竹林、大杉森）

<目指すべき姿>

- ・現在の植生（竹林、大杉森）を活かした**幽暗閑寂な空間の演出**（短・中期的）
※長期的には、園路の両側を梅林とすることを検討。
（保存活用計画より斉昭の設計思想に基づく復元）

<現況と課題>

- ・杉の混在により、竹林の景観が統一感に欠けている。
- ・樹冠が重なる密度の竹林と、ある程度の見通しがきく大杉森において、光量の差（アンバランス）が生じている。
- ・保存活用計画に基づく長期計画である梅林への植栽変更は、現状からの改変が大きい。

【具体的な方策（短・中期）】

- ①竹林の中に混在する杉の伐採
（竹杉の倒伏の予防保全として老木化による台風被害等への対策を含む）
- ②園路の両側の明るさを均等にするために大杉森と竹林を間伐

【景観に配慮すべきこと（短・中期）】

- ・孟宗竹で統一された景観を形成する
- ・間伐により空間全体で明るさを確保する。

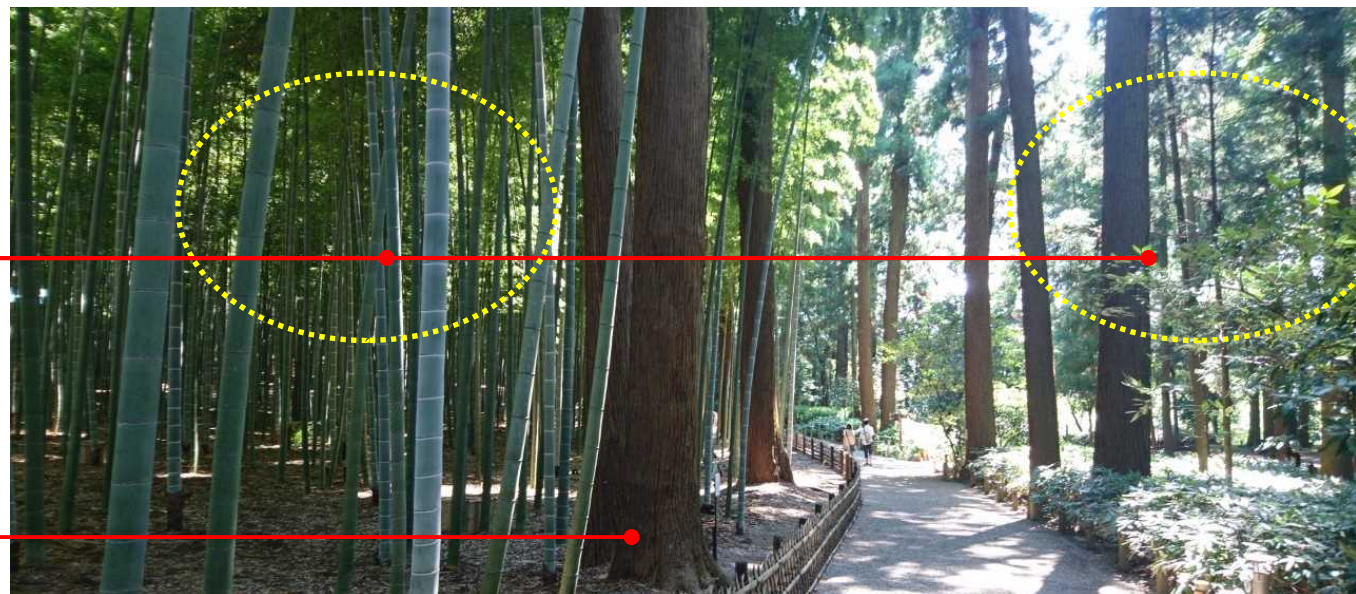
▼長期計画 アプローチゾーンの改修イメージ（保存活用計画より）



短・中期的に竹林・大杉森の陰の空間演出

②竹林と大杉森の間伐により明るさを均等にする

①孟宗竹の更新（杉の伐採）



4. 景観重点ポイント（太郎杉、吐玉泉）

①周辺高木の剪定等により明るさを確保し太郎杉を強調



②開放的なたまり空間の整備



<目指すべき姿>

- ・吐玉泉・太郎杉という象徴を際立たせる景観を形成するとともに、開放感のあるたまり空間の整備

<現況と課題>

- ・太郎杉周辺の樹木が繁茂し、「好文亭四季模様之図」に描かれた太郎杉の象徴性が欠けており、名所としての魅力が不足。
- ・太郎杉と吐玉泉周辺は、案内看板や園路柵などの工作物が不統一であり、空間的な一体感がない。
- ・太郎杉と吐玉泉周辺は、柵やウッドデッキ等が設置され、空間に余裕がない。

[具体的な方策]

- ① 太郎杉を際立たせるために周辺の杉やその他の樹木の間伐や混みあった樹冠の剪定を行い、空間の明るさを確保
- ② たまり空間の整備
- ③ 柵やウッドデッキの再配置（拡張を含む）を行い、人が行き交えるたまり空間を整備
- ④ 重複する案内看板など、不要な案内看板を撤去。

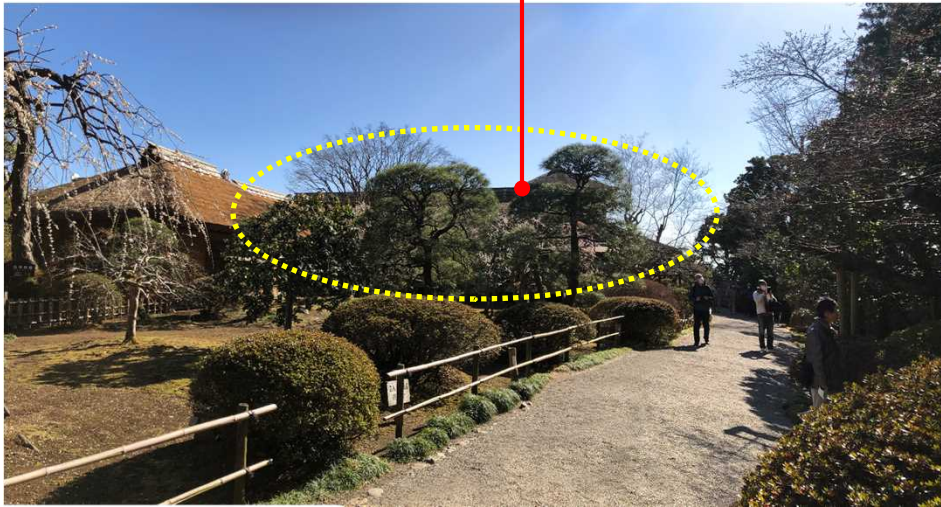
[景観に配慮すべきこと]

- ・柵やウッドデッキ、土留めなどに木材や擬木などさまざまな素材が使用されているため、竹柵など連続するエリアと統一的な素材を用いる。
- ・不要な案内看板の撤去と合わせて、案内看板のデザインの統一を図る。（P.30と同様）
- ・巨大な寒水石の泉（吐玉泉）により十分なたまり空間が確保できないため、将来的には台石の入替を検討。

5. 景観重点ポイント（好文亭入口）

好文亭アプローチ部の眺望

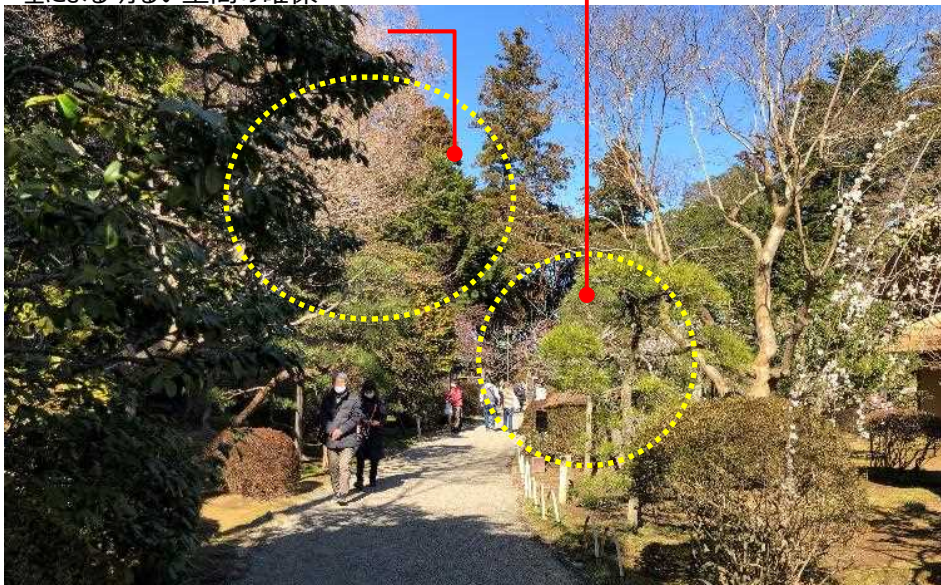
① 緩やかに好文亭に誘う植栽の縮小や剪定



好文亭から出口への眺望

③ 常緑広葉樹の間伐や高さの管理による明るい空間の確保

② 玉作り、玉散らしの剪定による奥行き感の創出



<目指すべき姿>

- ・好文亭、奥御殿へのアプローチとして、**既存の植栽を活かした奥行きをつくり、好文亭への誘導に期待感を創出**する空間。

<現況と課題>

- ・好文亭アプローチ部の庭園は資料が少ないため、創建当時の植栽は修復・復元できていない。
- ※現在の好文亭玄関位置は、創建当時の位置とは異なっているため、園路の線形が異なる。
- ・植栽の一つ一つは手入れされているが、植栽の密度が高く、全体的な重たさを感じさせるとともに、目標物である好文亭（特に楽寿楼）を隠してしまっている。
- ・西側の高木の密度が高く、空間に圧迫感を感じさせる

[具体的な方策]

<料金所→好文亭に向かう方向>

- ① 植栽の向こうに好文亭が垣間見え、緩やかに好文亭に誘うよう、**好文亭の建物形状に沿って植栽を縮小する。**
- ② 玉作り、玉散らしの剪定によりバランスのとれた樹形を確保する。

<好文亭→料金所に向かう方向>

- ③ 明るい空間を確保するため、西側の常緑広葉樹・正面の杉の高木の間伐や高さ管理を行う。

[景観に配慮すべきこと]

- ・各方向への見通しや誘導を意識し植栽を整えることで目的とする方向への視線誘導を図る。

6. 景観重点ポイント（好文亭庭園）

<目指すべき姿>

- ・好文亭の近景を楽しむ庭園

<現況と課題>

- ・好文亭内の北側の庭園では、足元の飛石の不陸や雨だれによるくぼみ、芝の生育不良が生じている。
- ・好文亭と奥御殿を繋ぐ渡廊下と玄関の間の中庭は、デッドスペースとなり庭園としての体裁が整っていない。

[具体的な方策]

- ①芝などの地被類の新植により地面を整える。
- ②中庭を坪庭として整備する。
- ③飛石の不陸調整を行う。
- ④砂利敷き等により雨だれによる土流出や泥はねを防止する。

[景観に配慮すべきこと]

- ・芝などの地被類の新植により被覆することで緑の空間を確保する。
※創建当時の資料がないことから改変は最小限にとどめる。

好文亭庭園の地面



①飛び石の不陸調整や芝等の新植



②砂利敷きによる土流出等の防止



③坪庭整備などによるスペースの活用

7-1. 景観重点ポイント（好文亭 ～見晴らし広場方面（左近の桜）～）

<目指す姿>

- ・**歴史的経緯や景観、健全な育成**の観点を踏まえて、**園内の適所に苗木を植樹し、市民に愛される桜の再生を図る**

<現況と課題>

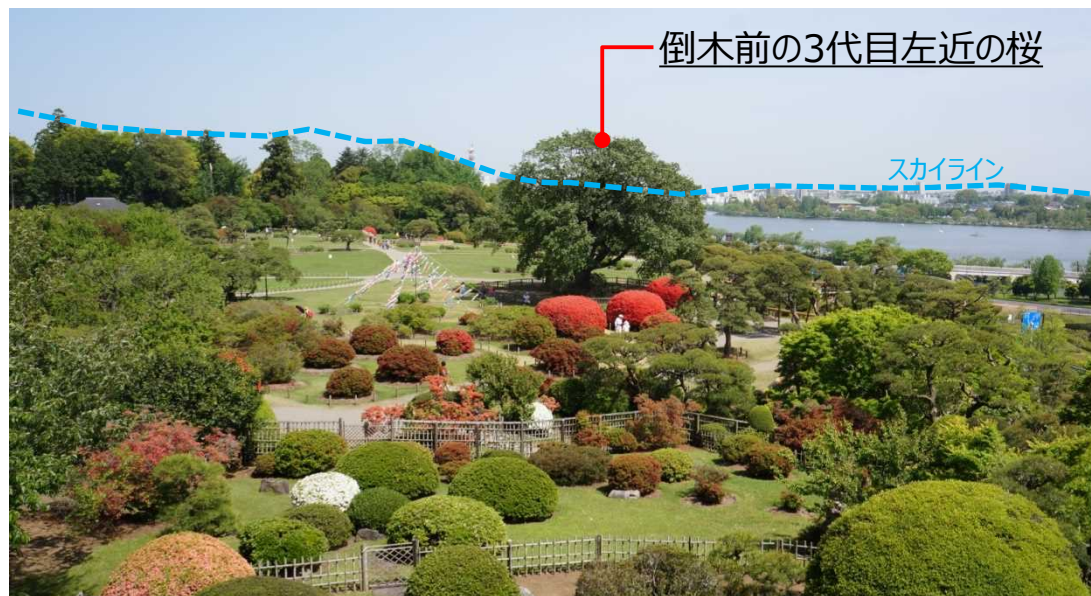
- ・左近の桜は登美宮吉子夫人の降嫁に伴い、京都御所の左近の桜から株分けされ、弘道館に移植された。
- ・3代目の桜を下賜された際（昭和38年）に、登美宮吉子夫人が好文亭に一時お住まいになられたことを踏まえ、そのうちの1本を偕楽園に植樹。
- ・長年市民に愛されてきた桜が、台風により倒木し、腐朽菌に侵され再生不可能なため、現在、撤去されている。
- ・倒木前の桜は、巨木化し、見晴らし広場から好文亭を眺める名所となっていた一方で、好文亭から千波湖への眺めを一部遮っていた。

[具体的な方策]

- ① 3代目の左近の桜と同じ位置に再植。
 - 1) 土壌調査（腐朽菌等）を踏まえた良好な生育基盤の確保
 - 2) 好文亭からの**景観に配慮した樹勢（高さ等）のコントロール**
 - ※ 次ページに好文亭内の視点を変えての検討を記載
 - ※ 植樹位置については、掘削を伴うため文化庁との協議が必要

[景観に配慮すべきこと]

次ページに記載。



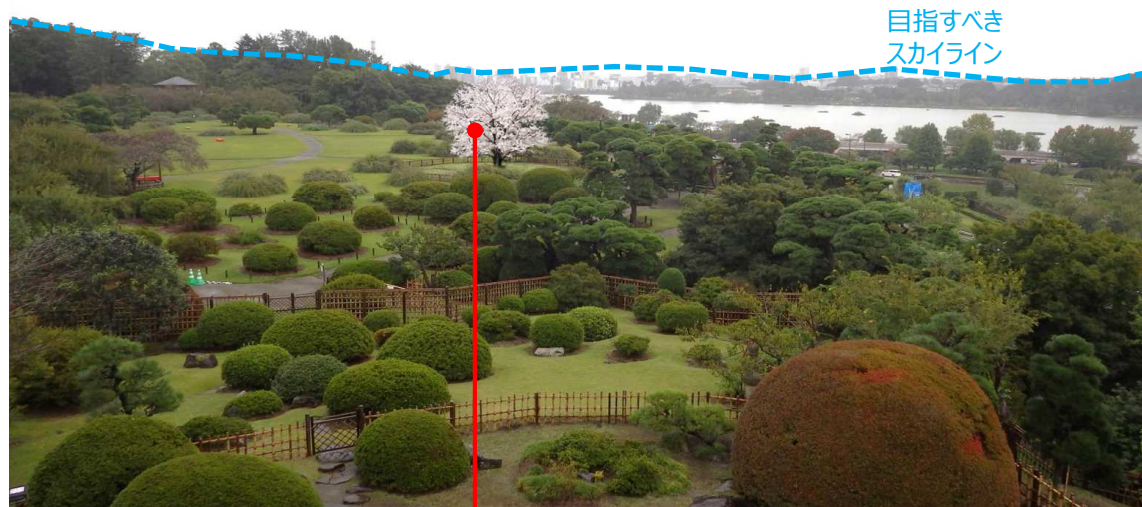
好文亭から左近の桜（倒木前）と見晴らし広場を望む



見晴らし広場から左近の桜（倒木前）と好文亭を望む

7-2. 景観重点ポイント（好文亭 ～見晴らし広場方面（左近の桜）～）

楽寿楼（3階）からの眺望



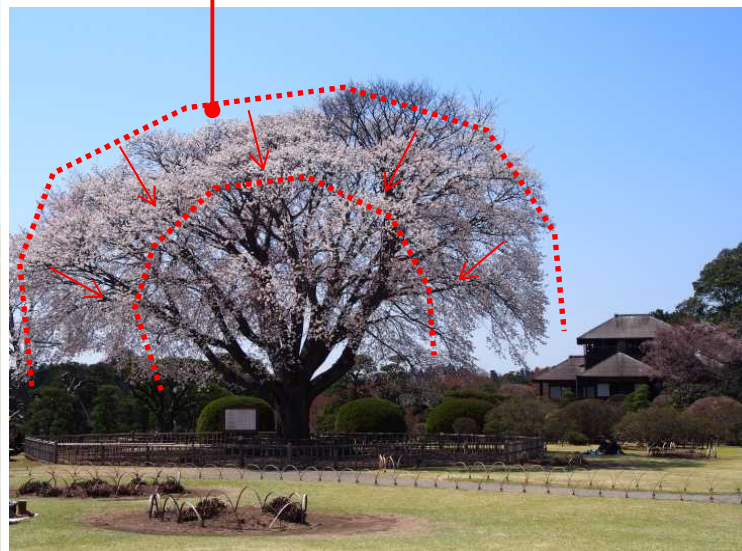
目指すべき
スカイライン

樹高を管理

東塗縁（1階）からの眺望



樹高の抑制イメージ



【具体的な方策】

①3代目左近の桜と同じ位置に再植。

- 1) 土壌調査（腐朽菌等）を踏まえた良好な生育基盤の確保
- 2) 楽寿楼（3階）からの眺望において、常磐神社や市街地のスカイラインを超えない範囲で樹高を管理。
- 3) 東塗縁（1階）からの眺望において、桜がアイストップとなることを重視。特に、開花時期にはランドマークとしての印象を強くする。

【景観に配慮すべきこと】

- ・創建当時の千波湖への眺望が広がっていたことを踏まえ、スカイラインを超えない範囲で左近の桜の樹高を管理。（苗木からの成長段階での樹高管理を徹底）

8. 景観重点ポイント（好文亭 ～千波湖方面～）

好文亭楽寿楼（3階）の眺望



好文亭西塗縁（1階）の眺望

鉄道・道路

①強剪定や間伐による千波湖への眺望を確保



<目指すべき姿>

- ・借景式庭園としての魅力を向上させるため、好文亭西塗縁（1階）から、園外（借景：千波湖方面）への**本来の眺望を確保**

<現況と課題>

- ・借景園の好文亭は、徳川齊昭により四季折々の景観が楽しめるよう設計されている。
- ・一方で、鉄道や道路の整備、周辺樹木の巨木化など周辺環境が変化し、創建当時の眺望と同じ景観を感じることはできないが、現代の周辺環境においても魅力ある景観整備が求められている。

[具体的な方策]

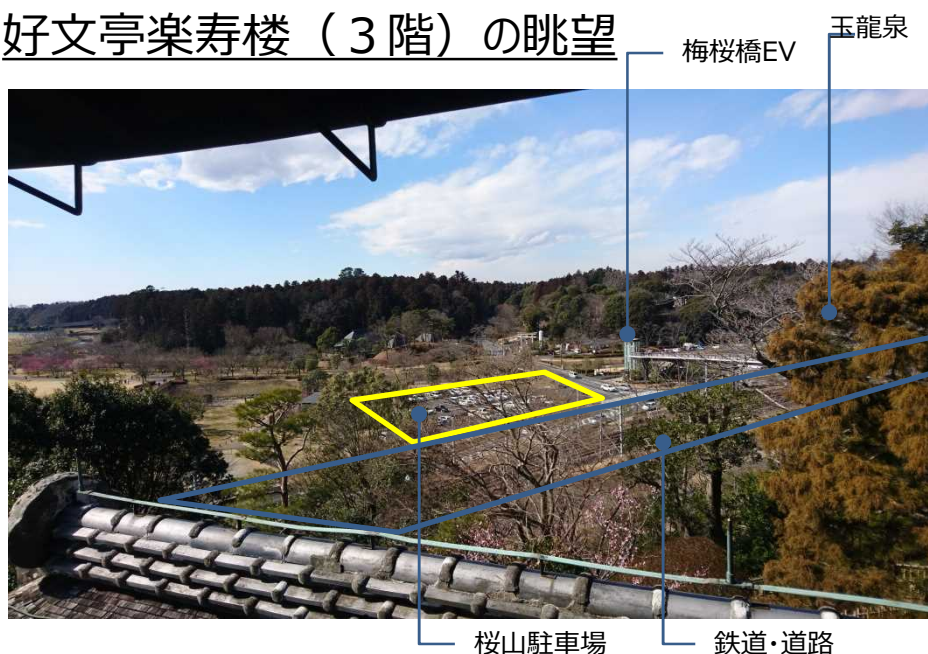
- ①好文亭西塗縁（1階）から千波湖への眺望を阻害する**南崖の樹木の剪定や間伐**を実施。
 - 1) 樹木は楽寿楼から鉄道や道路の工作物を遮蔽できる高さまで剪定（樹高の抑制）
 - 2) 千波湖への眺望を阻害している特に大きな常緑高木などは伐採（不要樹木の伐採）
 - 3) 眺望に奥行きを与えるため、樹冠の縮小や密度を下げる。
- ②鉄道コンクリート柱や道路のガードレール等についてJRや道路事業者との協議により色彩配慮を求める。

[景観に配慮すべきこと]

- ・1階と3階からの視点を変えても、見せたい景観（千波湖）が際立つ範囲内で既存樹木の高さを抑制し、鉄道や道路などの工作物を遮蔽する。
- ※南崖樹木の伐採等により、**好文亭楽寿楼（3階）からの眺望において今まで隠れていた鉄道や道路などの工作物の存在が顕著となる可能性がある。**
- ・眺望の奥行きや空間の広がり確保するため、不要樹木の伐採に併せて、樹冠の縮小や透かし樹形を用い、植栽の密度を下げる。
- ・「歴史的風致地区」であるため、鉄道コンクリート柱やガードレール等の人工工作物の色彩を景観色とする。

9. 景観重点ポイント（好文亭 ～桜山方面～）

好文亭楽寿楼（3階）の眺望



好文亭西塗縁（1階）の眺望



<目指すべき姿>

- ・**借景式庭園としての魅力を向上**させるため、好文亭西塗縁（1階）から、園外（借景：千波湖方面）への**本来の眺望を確保**

<現況と課題>

- ・借景園の好文亭は、徳川齊昭により四季折々の景観が楽しめるよう設計されている。
- ・一方で、鉄道や道路の整備、周辺樹木の巨木化など周辺環境が変化し、創建当時の眺望と同じ景観を感じることはできないが、現代の周辺環境においても魅力ある景観整備が求められている。

[具体的な方策]

- ①好文亭西塗縁（1階）から桜山への眺望を阻害する**南崖の樹木の剪定や間伐**を実施。
 - 1) 樹木は楽寿楼から鉄道や道路の工作物を遮蔽できる高さまで剪定（樹高の抑制）
 - 2) 桜山への眺望を阻害している特に大きな常緑高木などは伐採（不要樹木の伐採）
 - 3) 眺望に奥行きを与えるため、剪定により、樹木の密度を下げる。
 - 4) 桜山駐車場や梅桜橋EVなどは、当該施設周りの樹木により遮蔽（工作物の目隠し）。
- ②鉄道コンクリート柱や道路のガードレール等についてJRや道路事業者との協議により色彩配慮を求める。

[景観に配慮すべきこと]

- ・1階と3階からの視点を変えても、見せたい景観（桜山・玉龍泉）が際立つ範囲内で既存樹木の高さを抑制し、鉄道や道路などの工作物を遮蔽
- ※南崖樹木の伐採等により、**好文亭楽寿楼（3階）からの眺望において今まで隠れていた鉄道や道路・駐車場などの工作物の存在が顕著となる可能性がある。**
- ・眺望の奥行や空間の広がり確保するため、不要樹木の伐採に併せて、樹冠の縮小や透かし樹形を用い、植栽の密度を下げる。
- ・「歴史的風致地区」であるため、鉄道コンクリート柱やガードレール等の人工工作物の色彩を景観色とする。

10. 景観重点ポイント（芝前門）

<目指すべき姿>

- ・ユニバーサルデザインによる衆と偕に楽しむための園路

<現況と課題>

- ・芝前門脇の仮設スロープは好文亭と梅林を結び、車いすのほか多くの方の利用が見られる。
- ・仮設スロープにより、「陰」と「陽」の世界の往来を可能としている。
- ・梅林側（「陽の世界」）のスロープの勾配が急であるため、緩勾配への改善が必要。

芝前門脇スロープ

【具体的な方策】

- ①仮設スロープを本設のスロープにする。
 - ②本設スロープ整備に当たって、バリアフリー基準に基づく勾配に改善する。
 - ③スロープの通行面を、土塁（史跡）を傷つけない程度の高さに抑える。
- ※土塁（史跡）上の設置であるため、文化財を保護する必要がある。

【景観に配慮すべきこと】

- ・木々に囲まれた周辺の環境との調和を図れるよう、スロープの構造を自然素材に似通った部材を用いるとともに、近接する竹垣を組み合わせて遮蔽材として、設置する。
- ・木陰の景観であるため、自然素材に似通った色彩の部材を用いる。（現在の黄色のクランプなどは用いない）

①周辺と調和するデザイン、素材を用いたスロープの整備



11. 景観重点ポイント（大和亭）

<目指すべき姿>

- ・本来の動線である**好文亭から偕楽園記碑・見晴らし広場への誘導**

<現況と課題>

- ・好文亭から芝前門をくぐった先の植栽の配置が創建時から縮小され、大和亭への視線誘導を促している。
- ・主動線である偕楽園記碑や見晴らし広場への誘導がなされていない。

[具体的な方策]

- ①芝前門からの大和亭を遮蔽するように植栽の再配置を行い、**偕楽園記碑や見晴らし広場へと視線誘導する。**

[景観に配慮すべきこと]

- ・芝前門から大和亭付近が見えないように植栽の再配置を行う。

芝前門～大和亭

- ①芝前門からの連続的な動線と景観の確保



▲創建時の本園部一建物と動線（保存活用計画より）

12. 景観重点ポイント（見晴らし広場・仙奕台 ～千波湖方面～）

現状



<目指すべき姿>

- ・**仙奕台から千波湖を見下ろす本来の眺望の確保**

<現況と課題>

- ・仙奕台の復元された石の碁盤や松などは保存のため、柵で囲われており、仙奕台周辺から千波湖を見下ろす景色を望むことができない。
- ・仙奕台の柵や囲は存在感が強く、案内板は松やその他の工作物と比較して大きな印象を与える。

仙奕台からの眺望が可能な場合



①周辺と調和を図る意匠で再整備

[具体的な方策]

- ①仙奕台からの眺望を確保するために**仙奕台周りの工作物の撤去・再整備**
- 1) 仙奕台周辺の立入禁止柵の撤去
 - 2) 転落防止柵や案内板の再整備
 - 3) レプリカの碁盤等を設置し、本物の碁盤等は別の場所で展示するなどの保存を行う。

[景観に配慮すべきこと]

- ・周辺の景観と調和を図った転落防止柵や案内板の再整備（サイン計画はP.30と同様）

13-1. 景観重点ポイント（梅林）



①六名木を際立たせる囲等による空間整備

②十分な枝張り空間を確保



<目指すべき姿>

- ・偕楽園を代表する銘木（個体）を魅せる鑑賞環境の整備
（今ある梅を活かした魅せる梅林）

<現況と課題>

- ・一部のエリアで梅の木が過密に植栽されており、樹木同士が重なって見える。
- ・水戸の六名木等は柵の存在感が強い。
- ・視点場としてのベンチが園路を挟んだ位置に配置されており、魅せるための視点場空間の改善が必要。

[具体的な方策]

・魅せたい梅（個体）への誘導や周辺のしつらえ整備

- ①六名木などの個体を際立たせ、周辺と馴染むよう地被類や石などによる囲に変更（六名木の周囲のしつらえは統一することで誘導を図る）
- ②梅の木の健全度と植栽年数を考慮した計画的な密度調整によって十分な樹間を確保する。

[景観に配慮すべきこと]

- ・早急な梅林の密度調整は、梅林の印象を大きく変わってしまうため、複数年による計画的な密度調整が必要。
- ・六名木の囲の存在感を下げ、梅（個体）が際立つよう、根周りのしつらえを統一。



参考：樹間が確保され個体で見栄えがする梅（田鶴鳴梅林）

13-2. 景観重点ポイント（梅林）

<目指すべき姿>

- ・梅林を動きの中で魅せるための園路等の空間整備
(**今ある梅を活かした魅せる梅林**)

<現況と課題>

- ・梅林の園路はゆとりがなく、特に園路の交差部・分岐点は窮屈な空間となっている。
- ・園路に変化が少なく、見通したとき奥行きが感じにくいところがある。

[具体的な方策]

- ① 園路やたまり空間の整備に合わせて、梅林の密度管理や生育障害がある樹木の間伐や植替えを行う。
- ② 咲き誇る“梅林”を鑑賞するための空間整備
 - 1) 景色に変化を持たせる**曲線園路の整備**
 - 2) 立ち止まって梅に囲まれる**たまり空間の整備**

[景観に配慮すべきこと]

- ・早急な梅林の密度調整は、梅林の印象を大きく変わってしまうため、複数年による計画的な密度調整が必要。
- ・園路は、曲線を取り入れることで、歩きながら期待感を高めるとともに奥行きや変化を演出する。
- ・近い距離で梅に囲まれる空間を整備することで、視覚的な効果に加え、立ち止まって香りを感じる体験を提供する。

梅林の園路の眺望

- ① 園路交差部から眺めると梅林の奥行きや変化が楽しめるたまり空間と曲線園路の整備



14. 景観重点ポイント（管理圃場（歴史的景観の復元））



<目指すべき姿>

- ・**歴史的景観の復元**と**現代的なおもてなし**

<現況と課題>

- ・現在は管理圃場や植栽として使用している。
- ・創建当時、御楽焼所などの建物群があったエリアであり、建物群の復元的整備により歴史的景観を復元する。

[具体的な方策]

- ① 周辺の景観と調和を図った**建築物の復元的整備**。
(歴史的建物群の外観を復元するための**文献等の調査が必要**)

[景観に配慮すべきこと]

- ・表門からの竹林に向かう動線を主動線とする必要があるため、表門周辺から歴史的建物群への視線誘導をさえぎる植栽が配置する。
- ・復元する建築物が、竹林・大杉森側の園路からの景観を阻害せず、期待感を感じる外観とする。

▲管理圃場エリアの再整備イメージ（偕楽園APより）

現状



再整備イメージ（偕楽園APより）



竹林側の園路から期待感を感じる外装



15. 景観重点ポイント（東門）

<目指すべき姿>

- ・**ユニバーサルな利便性**を確保し、**歴史的景観へと誘うエントランスとしての景観**を形成する。

<現況と課題>

- ・東門の入口は、臨時の鉄道駅の設置など、周辺環境の変化に合わせて整備された。
- ・植栽地と通路の境界部は植栽と竹柵、むき出しの照明が混在しており、明確な分離や誘導がないため、動線が分かりづらい。

【具体的な方策】

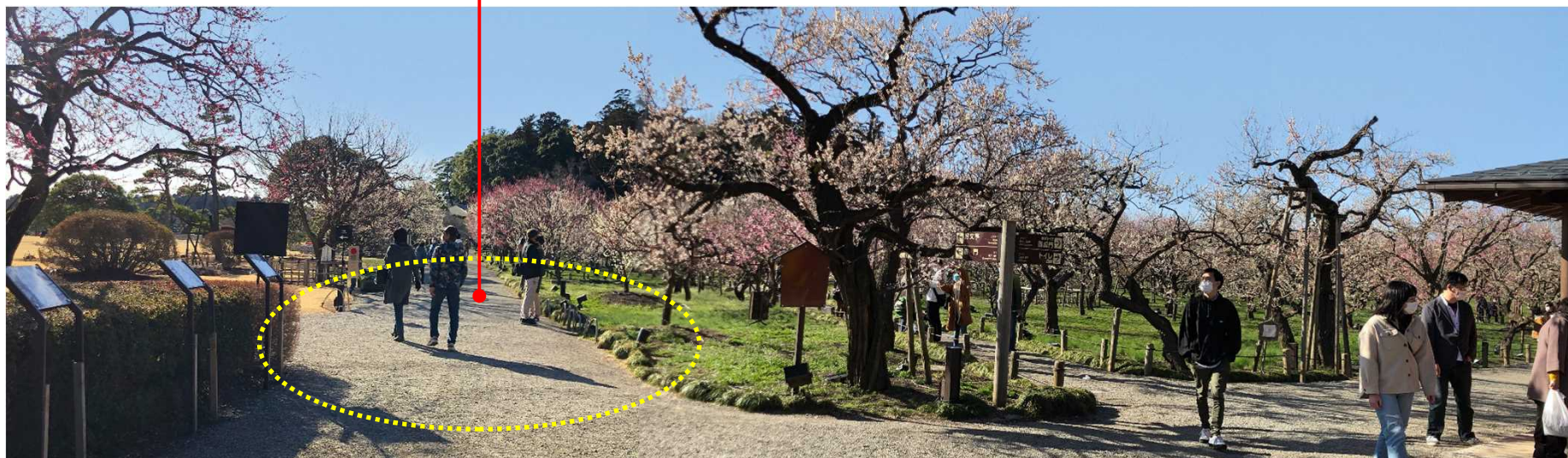
- ① 入園者数が多い東門周辺の園路をバリアフリー化するため、石張園路を整備。

【景観に配慮すべきこと】

- ・周辺の景観と調和した園路整備により「偕に楽しむ」ルートとして、好文亭方面への誘導を図る。

東門からの眺望

- ① 好文亭方面へ視線誘導し、周辺の景観と調和を図った園路整備



1. 景観の構成要素の統一的な対応方針【植栽の改善】・・・低木の矮小化と高木の剪定

好文亭西塗縁（1階）の眺望

①自然樹形仕立てや切り戻し剪定により巨大化したツツジを縮小



好文亭東塗縁（1階）の眺望

②スカイラインを確保する
(高木は自然樹形仕立てとする)



<目指す姿>

- ・好文亭1階から見晴らし広場方面への**本来の眺望確保**に向けて景観を改善し、**借景式庭園としての魅力向上**。

<現況と課題>

- ・好文亭の庭園は自然風景を取り入れた借景式庭園（復元時に史資料に基づいて造園工事を実施）
- ・樹木は管理されているが、形を整える程度で巨大化している。
- ・視点場（景観重点ポイント）からの奥行きを感じることができない（不統一な建物の大きさ）。

[具体的な方策]

- ①見晴らし広場への眺望を阻害するツツジ等の**低木は切り戻し剪定を行い、樹冠を縮小する**
 - ②**スカイラインを確保**し、高木は自然樹形仕立てとする
- ※左近の桜の植栽位置と高さは次頁にイメージを作成

[景観に配慮すべきこと]

- ・樹木の切り戻し剪定等にあたっては、段階的に縮小して自然樹形を保つことで景観上の急激な改変を避ける。
- ・巨木化した樹木（低木・高木）の縮小により、目立たなかった（見えていなかった）照明の配線や標識等の移設や保護の実施。

2. 景観の構成要素の統一的な対応方針 【植栽の改善】・・・ツツジの矮小化

<目指す姿>

- ・見晴らし広場から好文亭を望む景観を改善する。

<現況と課題>

- ・ツツジが巨大化し、見晴らし広場の中から好文亭への眺望を阻害している。

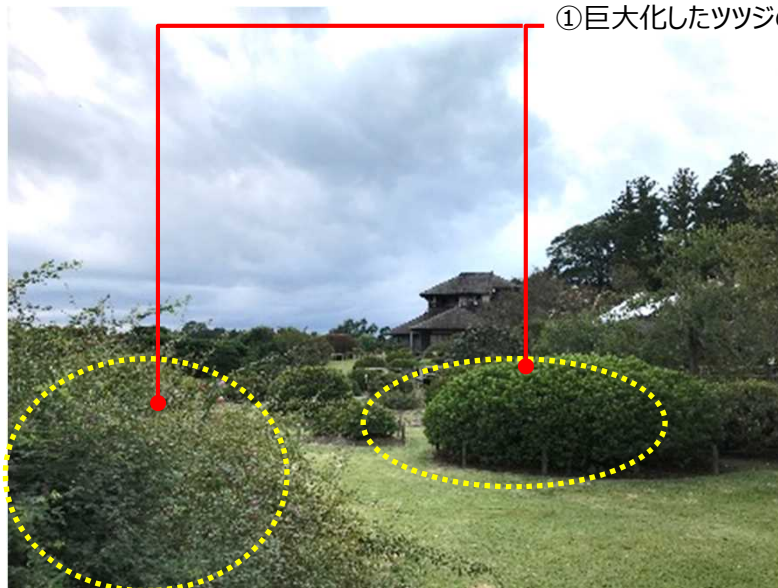
[具体的な方策]

- ①好文亭への眺望や見晴らし広場を歩きながらの眺望を阻害しないよう巨木化した低木は切り戻し剪定を行い縮小する

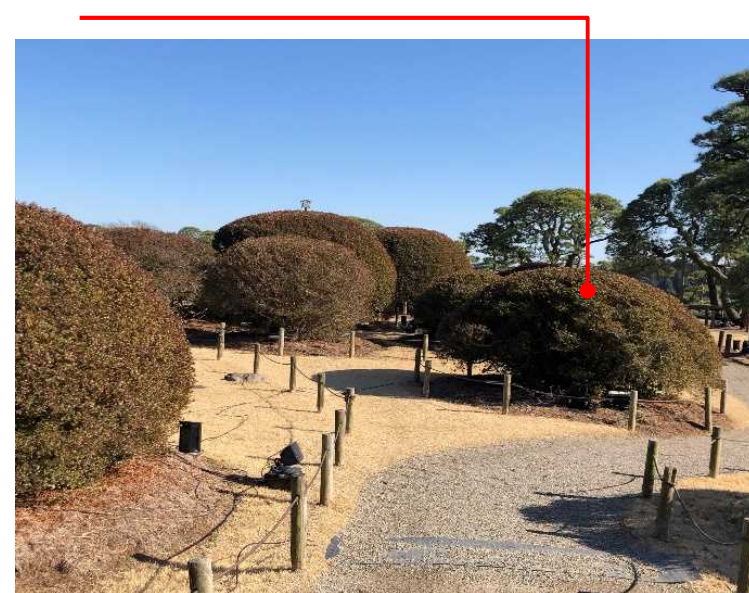
[景観に配慮すべきこと]

- ・好文亭からの視点を優先する。
- ・樹木の切り戻し剪定等にあたっては、段階的に縮小して自然樹形を保つことで景観上の急激な改変を避ける。
- ・巨木化した樹木（低木・高木）の縮小により、目立たなかった（見えていなかった）照明の配線や標識等の移設や保護の実施。

見晴らし広場から好文亭への眺望



見晴らし広場を歩きながら千波湖への眺望



3-1. 景観の構成要素の統一的な対応方針 【植栽の改善】・・・好文亭背後の高木の剪定

<目指す姿>

- ・見晴らし広場から好文亭を望む景観を改善し、**好文亭と高木による連続的なスカイラインを形成**する。

<現況と課題>

- ・見晴らし広場から好文亭を眺めたときに、好文亭背後の樹林が無造作で、眺望を阻害している。

[具体的な方策]

- ・好文亭背後の**常緑広葉樹を剪定し、スカイラインを整える。**

[景観に配慮すべきこと]

- ・好文亭アプローチ部における明るさ（照度）の確保
- ・背景となる市街地内の建築物（ビル等）

見晴らし広場からの眺望の現状（中景）



好文亭背後の広葉樹のスカイラインを整えた場合



3-2. 景観の構成要素の統一的な対応方針 【植栽の改善】・・・好文亭背後の高木の剪定

拡張部（田鶴鳴梅林）から好文亭へに眺望の現状



好文亭背後の広葉樹のスカイラインを整えた場合



<目指す姿>

・拡張部（田鶴鳴梅林）から好文亭を望む景観を改善し、**好文亭と高木による連続的なスカイラインを形成**する。

<現況と課題>

・田鶴鳴梅林からは好文亭背後の高木のスカイラインが不揃いで、好文亭も南崖の樹木が阻害している。

[具体的な方策]

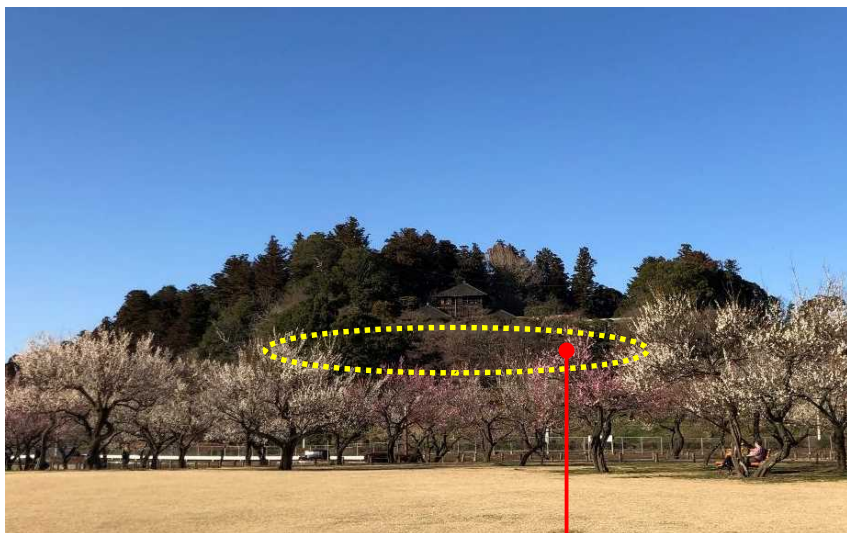
・**好文亭背後のスカイラインを形成するために高木を剪定、伐採**

[景観に配慮すべきこと]

・見晴らし広場から好文亭を望むスカイラインとの2方向の視点場とのバランス調整（好文亭背後の高木伐採）
・背景となる市街地内の建築物（ビル等）

4-1. 景観の構成要素の統一的な対応方針 【植栽の改善】・・・南崖の高木の伐採

田鶴鳴梅林からの眺望



<目指す姿>

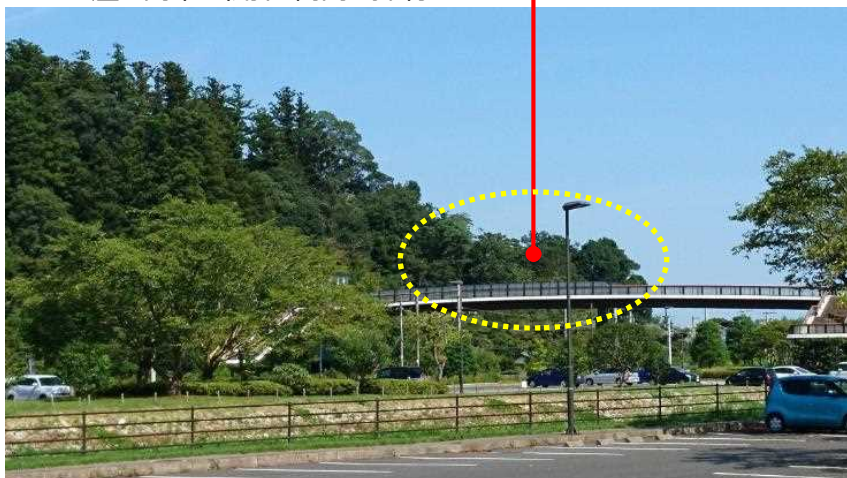
- ・偕楽園のシンボルである好文亭の園外からの視認性の向上

<現況と課題>

- ・田鶴鳴梅林から好文亭を望む際に、高木が育ちすぎて好文亭の一階部分を遮蔽。
(一方で、南崖の高木が、好文亭からの眺望でインフラ構造物(鉄道・道路)を遮蔽している。)
- ・桜山(玉龍泉)から、高木が遮蔽物となり、好文亭を望むことができず、さらに、その手前には梅桜橋が露出。

桜山(玉龍泉)からの眺望

- ①好文亭への眺望を阻害する南崖の高木の伐採・樹高の抑制



[具体的な方策]

- ①好文亭への眺望を阻害する南崖の高木の伐採・樹高の抑制

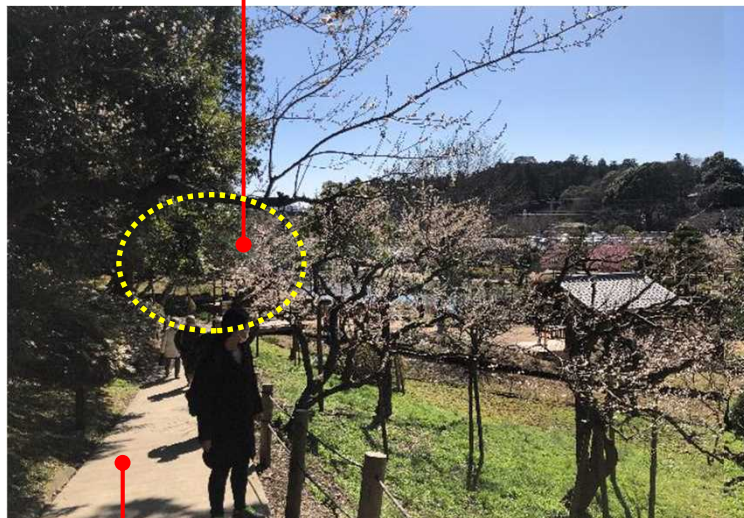
[景観に配慮すべきこと]

- ・好文亭から園外への眺望確保とのバランス調整
- ・鉄道などのインフラ構造物等の遮蔽とのトレードオフ
(南崖高木の伐採)

4-2. 景観の構成要素の統一的な対応方針【植栽の改善】・・・南崖の高木の伐採

南崖下の園路

園路に張り出した樹木の剪定



バリアフリー基準を満たしていないスロープ

グラウンドカバープランツによるエロージョン
(法面土流れ)の防止



<目指すべき姿>

- ・南崖周辺園路の安全性・利便性の向上

<現況と課題>

- ・成長した樹木が園路に張り出している。
- ・線路沿いに強雑草が繁茂し、笹の繁茂拡大による植生の偏りが見られる。
- ・高木は、好文亭から千波湖・桜山方面の眺望や拡張部から好文亭への眺望を阻害する一方で、鉄道・道路等を遮蔽する役割を担っている（P13,14,25と同じ）。
- ・バリアフリー基準を満たしていないスロープが整備されている。

[具体的な方策]

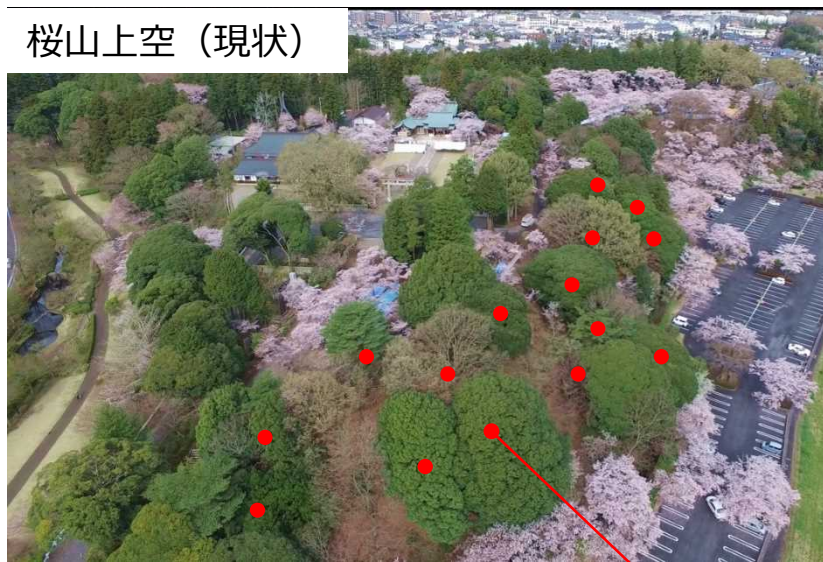
- ・**園路に張り出した樹木の剪定又は撤去**し、歩行者の安全性と見通しを確保する。
- ・グラウンドカバープランツ（地被類）によるエロージョン（法面土流れ）の防止。
- ・高低差のある**スロープ等のバリアフリー対応**。

[景観に配慮すべきこと]

- ・好文亭から園外への眺望確保とのバランス調整や鉄道のインフラ構造物等の遮蔽とのトレードオフ（南崖高木の伐採）（P13,14,25と同じ）
- ・スロープ整備を行う場合は、伐採等による植栽の景観変化を最小限にとどめるとともに、周辺環境との調和を図れるよう、スロープの構造を自然素材に似通った部材を用いる。

5. 景観の構成要素の統一的な対応方針【植栽の改善】・・・広葉樹の伐採と樹形管理

桜山上空（現状）



広葉樹が繁茂

借楽園図（創建時の絵図）



<目指す姿>

- ・創建当時の桜山の景観にするため、ヤマザクラ等の**在来種を中心とした植生への回帰**。

<現況と課題>

- ・創建当初の植生から変化し、広葉樹の繁茂によりヤマザクラが覆われている。
- ・部分的に桜の枝葉が接触（病虫害、樹形乱れ等の景観支障要因）
- ・園路際など一部枯損・生育支障

[具体的な方策]

- ・繁茂した**広葉樹の伐採**
- ・遠景だけでなく、シークエンス景観を意識した**樹勢を確保するための間引きと剪定による樹形管理**

[景観に配慮すること]

- ・適正な植栽密度の確保

6. 景観の構成要素の統一的な対応方針【工作物等の意匠や再配置(サイン計画)】

- 多くの看板類がその時々々の目的に応じて設置されており、統一感がなく、景観価値を低下させている。
- 分かりやすさ・利便性といった看板の役割・機能を確保した看板類を動線上に機能的に配置し、統一感のあるデザインで設置することを検討する。

現状

多数の統一性のない看板類が景観を阻害

- 各々の目的・機能を重視した看板類が散在
- 設置時期や目的ごとに設置され、デザインに統一性がない
- 多数の入口・動線に対応することで煩雑さが増した誘導板
- 動線上に同様の注意喚起標識が複数

対応方針

景観に配慮した看板類を機能的に設置

- 統一感のあるデザインの看板類を設置。
- 動線上に機能を確保した看板類を設置し、不要な看板類は撤去。

設置・撤去の考え方

- 魅力体感に誘導する案内板・誘導板を設置
- 分かりやすく・見やすい解説版を設置
- 動線とリンクした注記喚起標識の配置
- これらのデザイン・材質に統一感を持たせる

<看板デザインの考え方>

【2タイプ共通】

- 箱型（2サイズ）とスタンドの3種類（現状の板面サイズを基本とする）
- 耐久性を確保するためステンレス合材を使用
- 本体は好文亭をイメージしたダークブラウンを使用

【箱型形状】

- 重し（コンクリート）は箱型看板の中に入れて遮蔽することで景観に配慮
 - 下部は梅型のパンチングメタル
- ※スタンドタイプは強風時は撤去



解説板の案（箱形斜板タイプ）



解説板の案（スタンドタイプ）

7. 景観の構成要素の統一的な対応方針【工作物等の意匠や再配置】

現状



<目指す姿>

- ・御成門周辺のパノラマ景観の形成

<現況>

- ・御成門周辺はゆとりのあるたまり空間
- ・案内板が梅林の見通しを阻害
- ・マンホールがパノラマ景観の一部に入り込む

<具体的な方策>

- ・案内板の移設（又は撤去）や周辺と調査を図ったマンホール蓋の意匠への変更によりパノラマ景観を形成

<景観に配慮すべきこと>

- ・周辺と調和した工作物の素材等の検討

工作物等を再配置する場合

周辺と調和するマンホール蓋の意匠を検討

案内板を移設又は撤去



8. 景観の構成要素の統一的な対応方針 【仮設工作物等の意匠や配置】

- 仮設工作物は、特に景観重点ポイントにおける景観に配慮し、本来の機能・役割を発揮することで、総じて偕楽園の魅力が向上するように努める。

イベント時間外の景観に配慮したイベント設計や運用
(資機材等の保管)



機能を果たすための仮設物の設置場所の再検討や
意匠の配慮



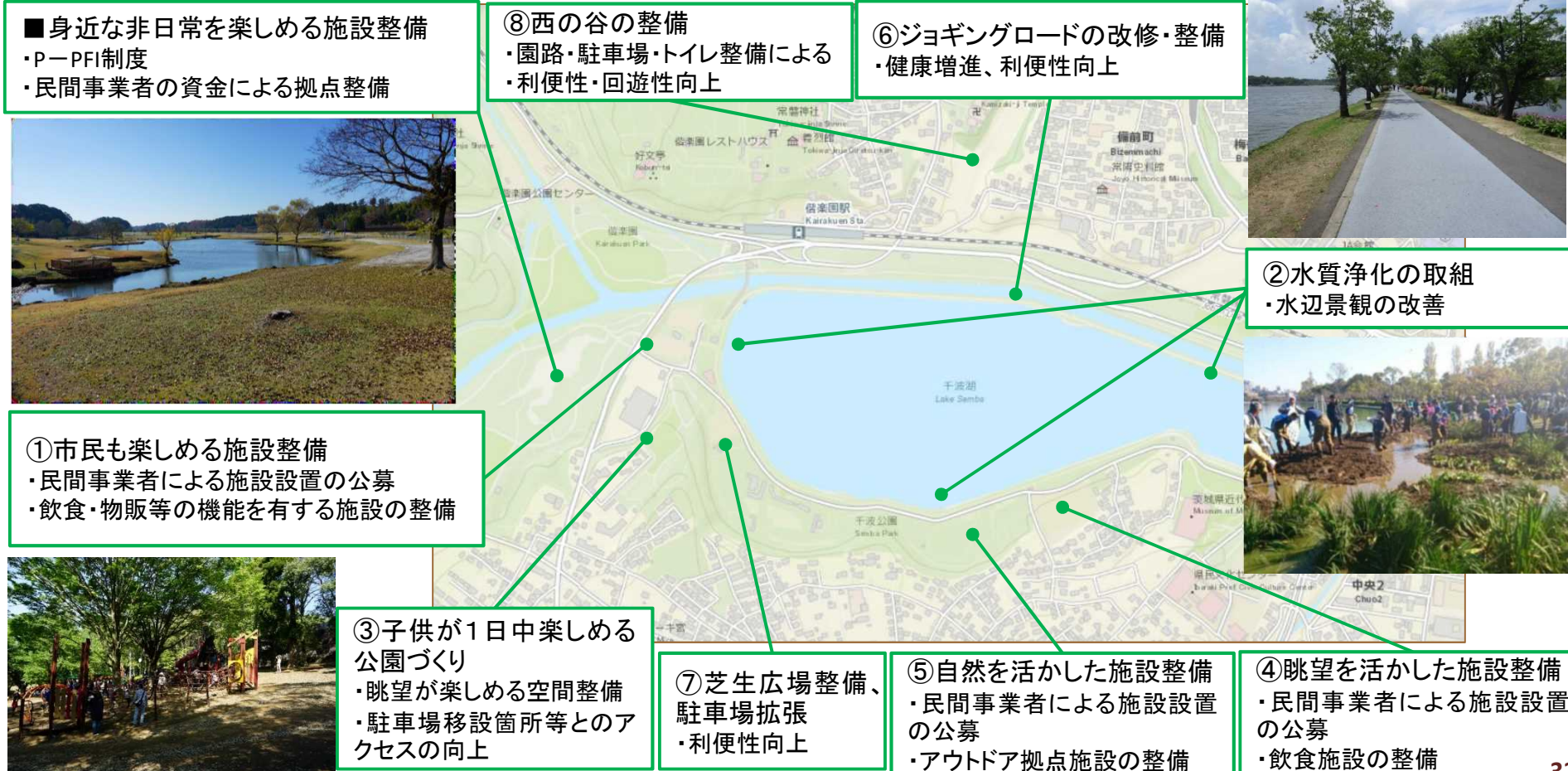
9. 景観の構成要素の統一的な対応方針【園外の工作物、構造物等の意匠】

- 拡張部におけるPark-PFIを活用した“身近な非日常を楽しめる施設”の整備や千波公園の施設整備にあたっては、「水戸市景観計画」との整合を図り、本園からの眺望に配慮する。



▲好文亭楽寿楼からの現在の眺望

アクションプランの基づく拡張部、千波公園の施設整備計画

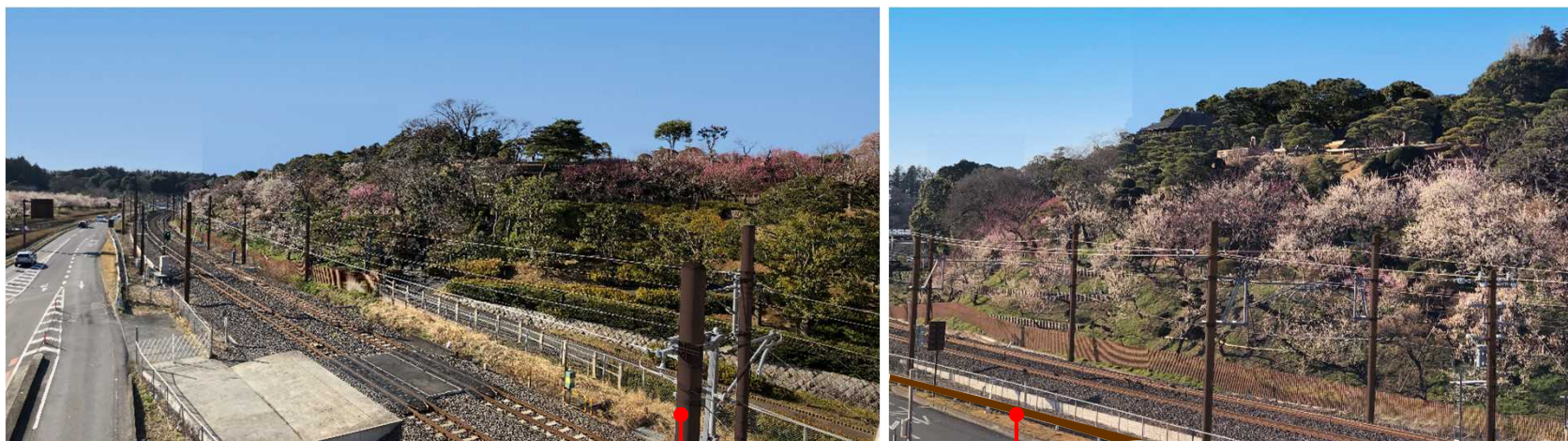


10. 景観の構成要素の統一的な対応方針【園外の工作物、構造物等の意匠】

現状



周辺の景観と調和する色彩と素材にする場合…協議し配慮を求める。
好文亭から南崖の樹木に透けて見える場合の景観形成にも寄与。



鉄道コンクリート柱やガードレール等
について色彩配慮を求める